

大和名所圖會

漆下郡 平群郡
廣瀨郡 葛城郡
忍海郡 三



部	内	四	九	四
者	有	格	優	間
			一	〇

大和名所圖會卷之三

廣瀨郡

添下郡 平群郡

葛下郡 忍海郡

西大寺

豐心院

超昇寺

秋篠邑

外山里

元明天皇陵

弘法井

安康天皇陵

菅原伏見

新田部親王祠

菅原池

唐招提寺

金堂 講堂 五層塔 西院 佛足石 碑圖

菅原伏見

西京

郡山城

藥園宮

大織冠丘

大井

筒井

神功皇后陵

成務天皇陵

菅原社

菅原寺

興福尼院

御影堂 阿彌陀堂 孤山松 倉海波池

佛足石 碑圖

植柳八幡宮

美濃山陵

弓井城

秋篠寺

額德天皇陵

垂仁天皇陵

伏見岡

赤膚山

赤膚山

西京八幡宮

羅城門

大塚

東明寺



三井	法起寺	茶師井	橋本社	鳴川光寺	小倉峯	阿弥陀井	押熊祠	私部越	星表泉	登彌社	王龍寺	金剛寺
調子凡家比	駒墳	椿井	安明寺	生駒谷 水渡石	教弘寺	福貴寺	秋篠川	清瀧越	巖船祠	寶山寺	長久寺	西松尾寺
北岡墓	法輪寺	千塚	金勝寺	往馬社	思取	御櫛社	岩船越	龍王峯	靈仙寺	赤橋	勝間田池	
斑鳩里	舟塚	瓦塚	雙墓	平群社	棕嶺越	竹根寺	山口社	八幡祠	北河越	迹見池		

廣順宮	立聖	二室山	龍田山	信貴山	神南備	毛無岡	苑部墓	菅田池	藏王堂	正覺寺	御相殿	西園堂	因可乃池
中修井	百濟宮	二室山	龍田川	赤尾	淡小竹原	二田屋	龍田新宮	額安寺	金光寺	三寶院	東水屋	富小川	
八福	小倉峯	大味川	信貴古城	神岳社	占手山	龜瀨山	竹原井	常樂寺	新禮堂	三經院	法隆寺	法隆寺	
百濟川	櫻嶺	龍田社	紅茶川	猪上社	堀屋址	磐瀬社	清水墓	芦塘宮	中宮寺	繪殿	沈水香圖	講堂	

六

あまのやうれ柳かよる

あまのやうれ柳かよる

あまのやうれ柳かよる

あまのやうれ柳かよる

あまの柳

あまの柳



西大寺

夫木

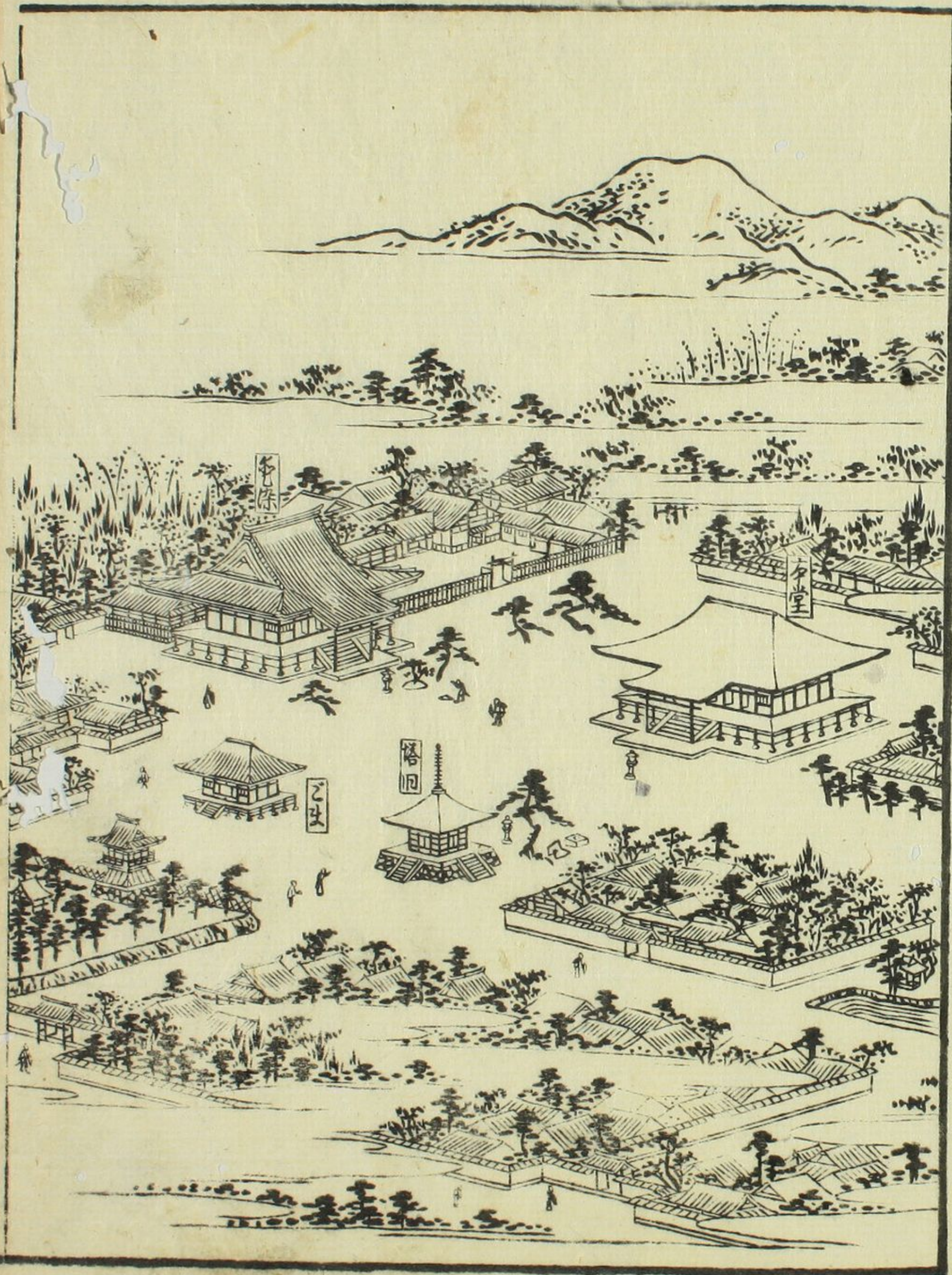
この寺もこの大

なり

預い

この

殷富門院



添下郡西大寺村あり
南都七太寺其一あり

元年加藍のまぐく成就

高麗ちと我名つけらるる仁明天皇は寺家崇敬あり

類聚
國史

寺に於て三輪宗弘ゆゑひしよりふかく信ぜり

觀音堂本尊丈六立像の觀世音菩薩の御願うて洛陽小千谷

四天王ハ大平神護元年小鎌倉^{こがくら}を所^{ところ}とせしが中に増長^{ぞうちやう}大^{だい}一^{いつ}軀^くと七度^{しちど}示^し至^{いた}て

玉子瓜以熟銅所攪之漆少一壺像之

愛染堂に愛染明王の化人の化よりこれを弘仁四年七月異賊發く

九明ふせ入う其をくおふよめく浮伏くて與正菩薩勅令依

ふひやう男ハ幡宮みく八百屋の仁王経七昼疾七塙のいのり護摩

満了疾矯矢如風^て飛り遂^に尔^を宰府^に訪多^くあ^る異賊退治

ぐく^くは^はの^の疾^{しやく}より明^{めい}王^{わう}持^ぢおの^{おの}冬^{ふゆ}々^々々^々々^々永^{えい}く^く足^{あし}々^々々^々り^りー^ーと^と
 宝^{はう}藏^{ざう}ふ^ふあり^{あり}

奥院 奥正菩薩の塚あり、抄西大寺須観二年の圓縁より二百七十八年、瓜経く嘉徳二年、奥正菩薩中奥同基せりとて思円上人とて竹の正安

二年、因正菩薩と謚し、其外后妃、文應上皇、與正菩薩を尊み、
ひく菩薩を授け、其外九万七千六百人を授戒あり。

正應云年八月廿五日為大ちて
入寮（一）多ひれ年九十（二）
衆書

豊心丹
中にある一説ふ畠山の伝へる一説土より方瓜求め秘方とせられ

ぐあ大才の大荒軍場ふ心のくくくありけ賞くく豊心丹の方々に二百石ふ
そくく寄附すれくく畠この記禄ふふくく

紹昇寺紹昇寺村
 平城天皇乃二皇子真如法親王の所造之へ又清海

上人爰の告^つく^く建^{けん}管^{かん}より一念佛堂も大正の江井戸若狭^{わかつら}ち^ち兵火^{へい}よ

焼亡せしる近年修造あり

神功皇后山陵

蒼山蒼藂とく老ね生花とく

小て山崩をぬふ一百歳使城盾列陵小葬王太と追尊と



秋篠や
 庄屋さん
 村一色

凡兆

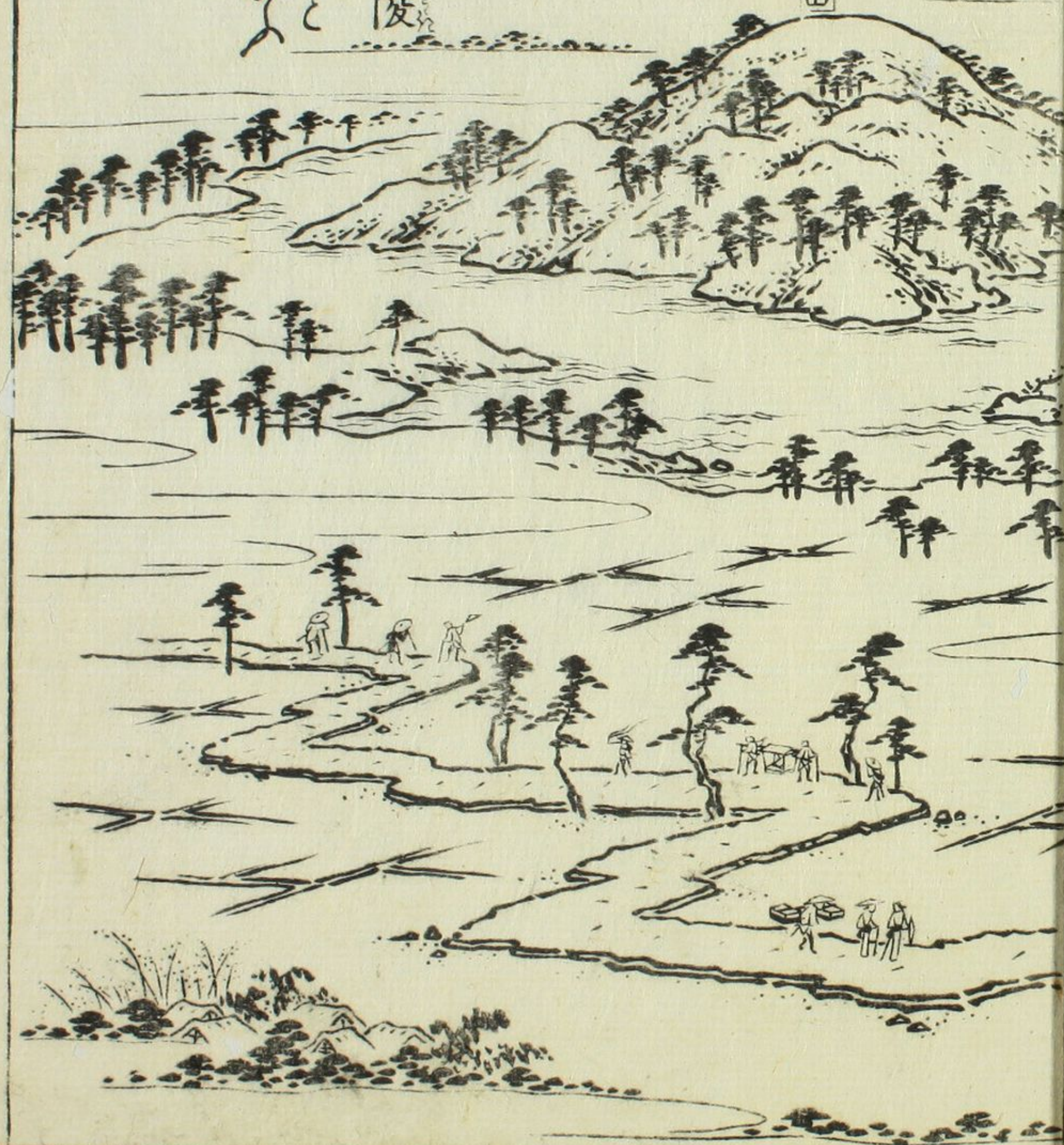


秋篠里
 三
 七夜の
 いまは
 秋篠の
 里に
 衣
 之

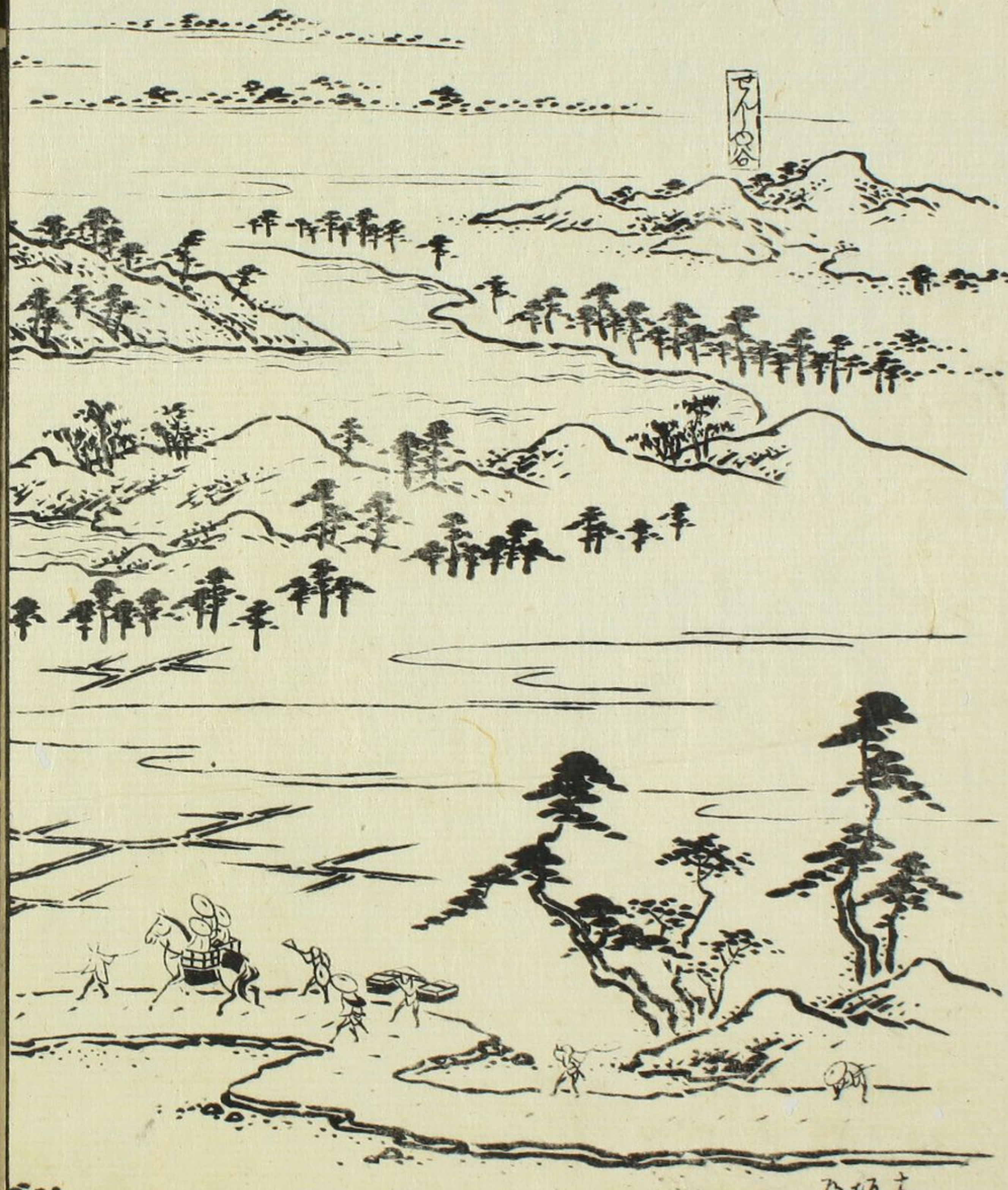
秋歌大撰抄曰秋篠の外への里へ佇^ひ眺^みの嶽^{だけ}のふりこふありとて師説云

陵圖考曰
 聖仁天皇陵
 字宝来山
 乃

寶来山



乃乃谷



乃乃谷

武勢大皇陵 と陵村あり陵圖考曰高サ三十二間根廻二百七十六間大和巡遊記曰石塚

稱徳天皇の陵之成勢、陵の西ふふあり、字ハ高野山
陵、圖考曰高廿三八間、根也、巨三間

高サ十二間根より百八十一間

井桐湧溢を
靈泉み

菅系村にあり神名帳添下郡菅系神社と云ふ
聖廟ふいあけとらん或説小月々々より

[illegible]

菅原村の所見宿村末孫土師宿村右人土師宿経道長
ふとの位一所之菅原相の遠祖之

いさ憂ふ我世を經るん菅原や伏見の里は荒ゆくも形—— 懐人志

官系や佐々里は荒より通ひ人のたふたふと

仁となく世を想ふに菅原や佐八の里の夕ぐさ
 女は門を枕小窓のつゆにふたふたの夕ぐさありを

菅原寺

續千載

子觀志

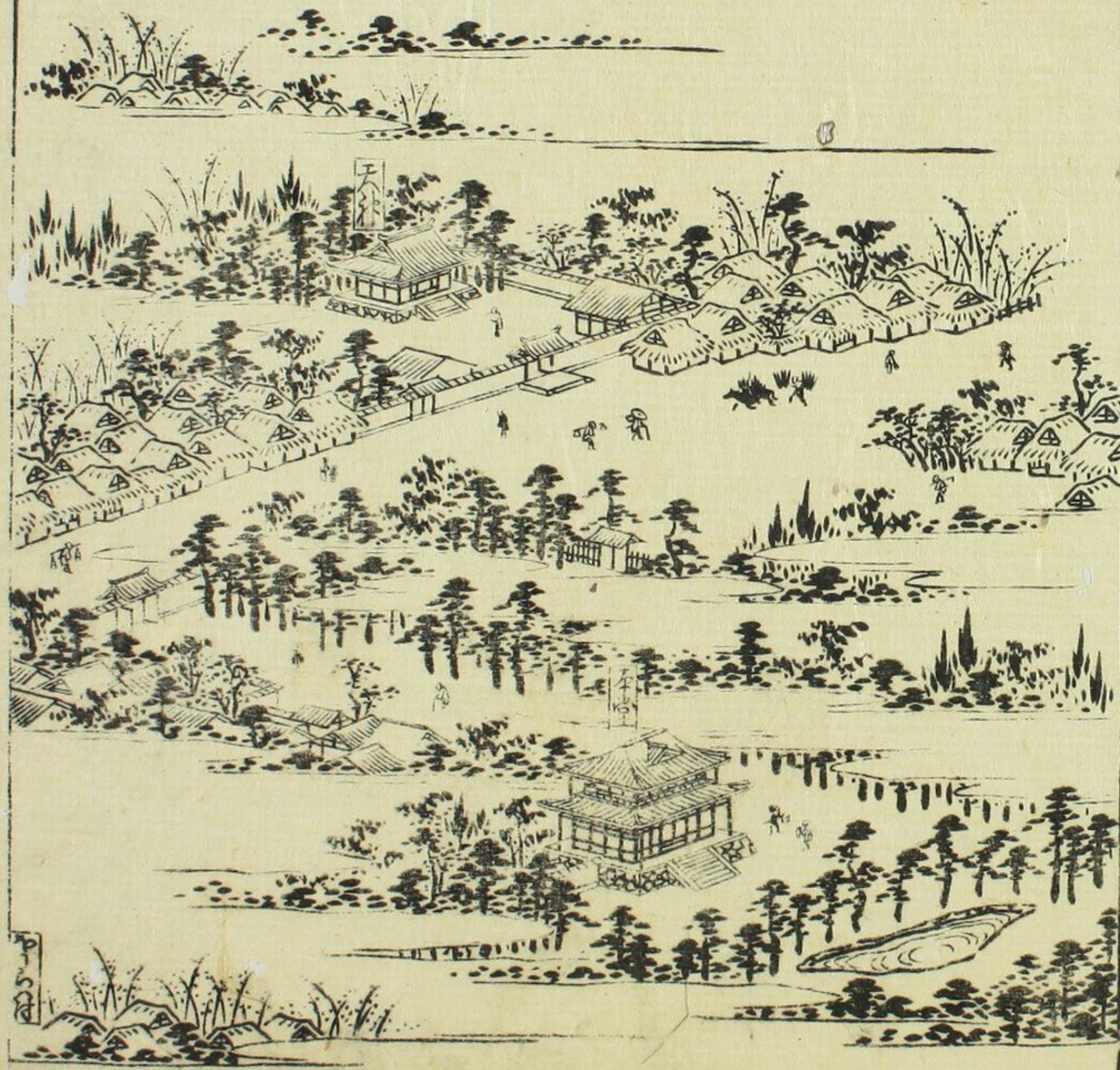
Die

菅原也

ふみり

むの

定家



伏見岡



菅原寺

菅原村小あり
一名喜光寺

仍基菩薩の建多へ本尊の長八尺座像の阿弥

陀如来の聖武帝りありに如来光祿放ちのふりて喜光寺

の勅號ありとるんを傳へる夫行基菩薩へる志氏めて和泉國

太宰郡の人天平十七年大僧正の召入寂しめ

號は賜同年二月日けちの東南院より入寂しめ

新勅撰 作給ふの據よりとるんは是戒の秋 年八十二 秋中 小月人より

この月よりくもりぬありとるんはふり光のくもりぬありとるんは

初めの宿り我そ今ふたものふりとるんは

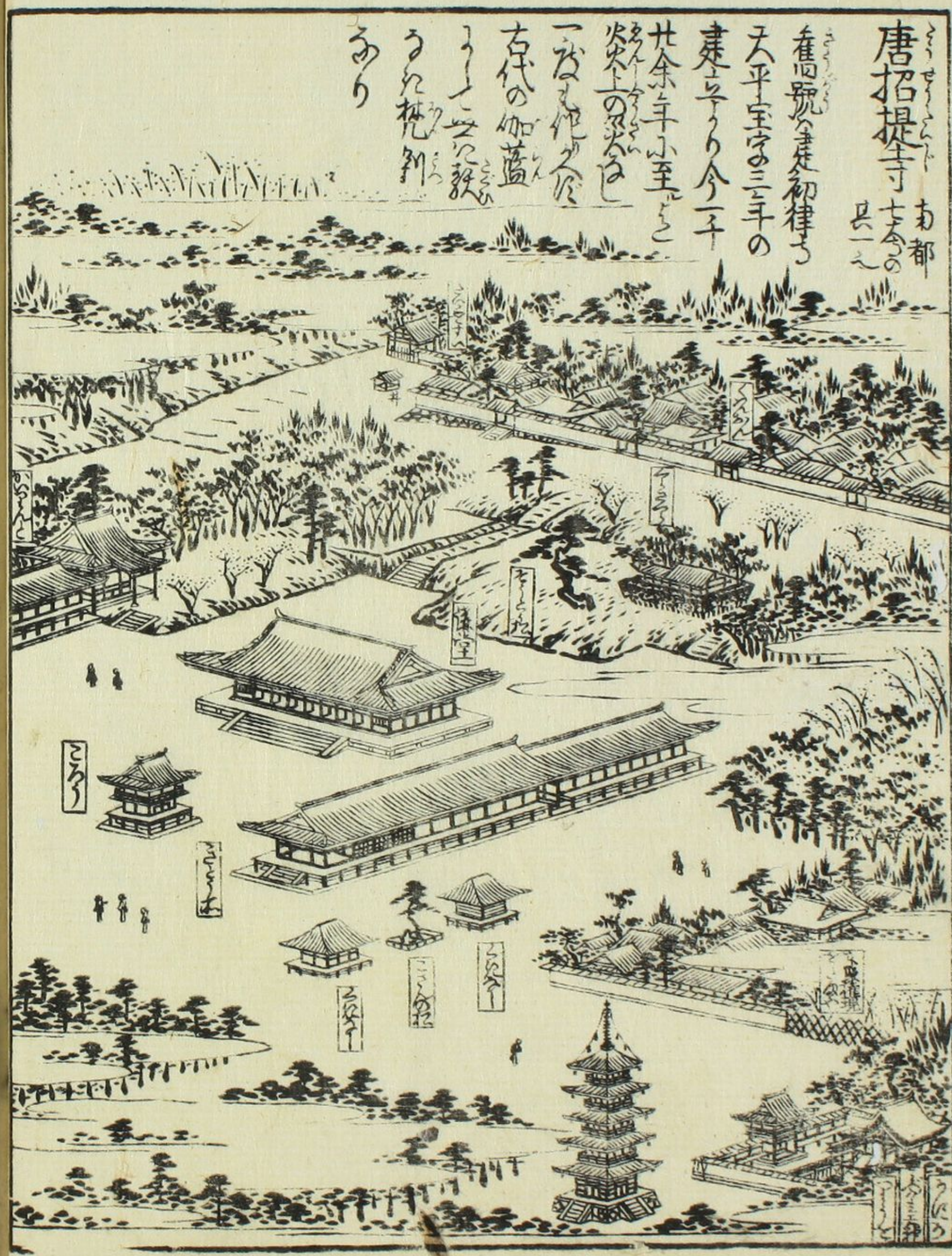
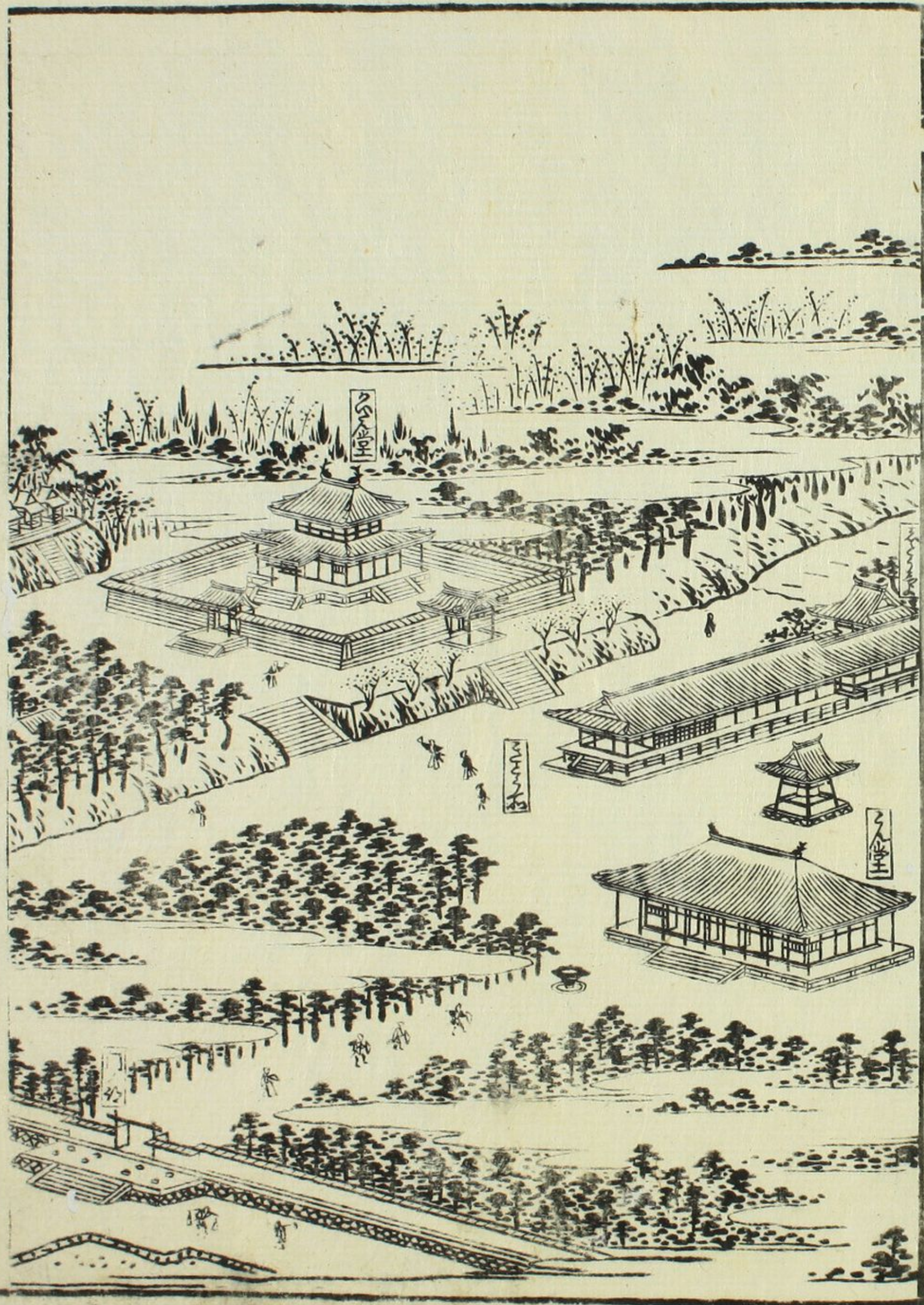
伏見岡 伏見岡の東のふりとるんは

菅原村小あり日本紀曰推古天皇十五年

新田部親王 伏見岡東のふりとるんは

菅原村小あり日本紀曰推古天皇十五年

菅原村小あり日本紀曰推古天皇十五年



興福居院伏見の國の南 圓能法師の住し新之一名弘文院と号し中尊阿弥

陀如來を主日の祀めし脇士小親を對主公安とて是より久しく額發し

及び一實を五年の秋靈地を賜て再興ありしと大和 社記

赤膚山五條村小あり赤土の元あり

夜ふくありありとせしむに一つしかうとふ

唐招提寺蓬萊村の南あり樓は唐招提寺と額 用基鑑真大僧正 真言兼学

聖武帝の神預めしと創ありし靈場此地は新田部親王の旧宅

金堂唐土の如宝内本 文六の釈迦佛を安置其堂中は千佛あり

食堂藤の仲公の家 經藏五寶 五層塔日本紀曰大同五年散位江沼

國家鎮護のとく大藏經に千五層塔臣小並等公遣 招提寺

胃索堂藤の清公の家 西方院阿弥陀堂中興用山大悲菩薩

御影堂鑑真の遺像と云ふ 西方院阿弥陀堂の廟所あり

孤山大和志曰寺前 滄海波池大和志曰今も園 醍醐味泉ち内小

彌勒講式曰孤山松岡徐禮百毫之秋月滄海波池上遙引紫雲臺之曉雲

佛舍利三千粒弘法傳通記曰はち外一の什室之用基鑑真末朝の時海

龍神龍神龜と化しはちの池に宿る 舍利の獲神輪蓋龍王と号しは時より

日海の午の時舍利の戸にひひ供養今も絶えと云ふ

開山鑑真和尚唐の揚州龍興寺の智藏を奉親主宗帝の代天寶二年

吹つてより去後勝宝四年遺唐使大伴宿禰古磨が如く

東大寺に至りて將來の佛舍利三千粒阿育王塔様銅支提止觀玄義文句

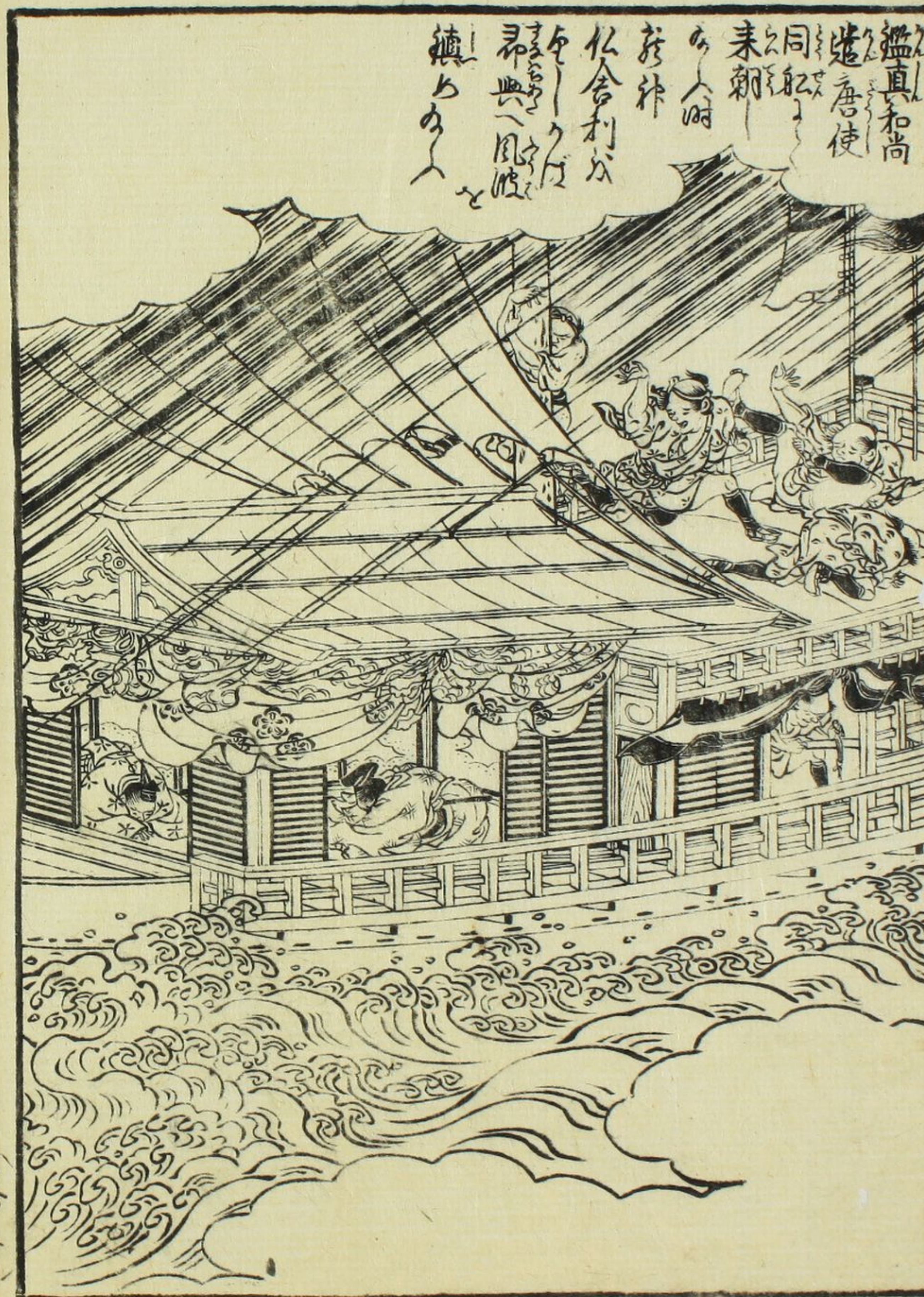
總提子二十冊王右軍の書一卷聖武天皇小なりは其後勅より東大寺

鑑真を建又招提寺を建しは其後都より任し傍心小任を人傍心は後

中興開山覺盛和尚又名窮情上人四條院仁治年中小宮中より菩薩戒

十九日入寂し人後孫州院寺より大悲菩薩

と後の位なりと云ふ



砂村ふ
あり
天武帝白鳳九年皇后御疾おと内しくなれし天皇

某師如來公作堂塔公建公預公一百傷公供養公終公

忽ふ平金をせり
日本紀
其頃伽藍の形容を知らず
沙門祚蓮

入定〜龍宮の伽藍のとくこと書うい奏向ん経る帝感あり〜

造宮の勅定あり書其後持統天皇十一年某師の開眼あり果紀撰文武

天皇二年小茶師寺成就續日本紀乙未大和國高市郡岡本

建久元正帝親老二年高市郡より添下郡右京の六條

[illegible]

金堂 本尊某師如來十二夜及神觀世音三軀人孝德帝の所預一軀

二月一日より七日
講堂
むくは堂
寂勝舎あり
文安二年小

西院さいいん 舎人さうにん 親王しんおう の布造ふぞう 立慶長元年七月十二日

東院とういん 本尊觀世音と孝德帝の御造立
六層塔そのう 天平二年の建立

文殊堂 いづへのあづか

佛足跡石碑圖

恭佛跡十一首
義阿止都久留伊志乃皆臯伎
弥獲知阿麻利布多都乃加
与伎比止乃麻佐尔義祁牟
巳乃義阿止夜与呂豆比賀
伊可奈留夜比止尔伊麻世
麻湏良乎乃湏乙義佐岐
麻湏良乎乃布義於祁
呵嘖生死
波阿米尔伊多利都知佐間由湏
佐伎波比乃阿都伎止毛加羅
乎遲奈伎夜礼尔於止礼雷比
舍加乃義阿止伊波尔宇都志
久湏理師波都祢乃毋阿礼
巳乃義阿止乎麻婆利麻
於保義阿止乎義尔久留比

死
已乃義阿止乎麻婆利麻
於保義阿止乎義亦久留比

真跡
長一尺五寸
七分
廣五寸三分

碑の高六尺餘廣一尺五寸餘厚二寸兩傍
一寸五分計石面は倭歌廿一首分て二段と
上段十一行下段十一行上段才二首の上は恭
佛跡の二字あり才九首の上は二十七首の四
字あり下段才七首の上は呵嘖生の二字あり
才九首の上は死字あり蓋十七首佛足跡は
讃との歌也四首は呵嘖生は詠じ歌あり
今こゝに書とり文字は十七首の内十首計
の句を摘み其石碑の体相を圖とす

磬石高一尺八寸餘
平面縱二尺五寸
橫三尺二寸五分



丈佛足石といへし其本尊茶師如來所造立の時百濟國より献け
大聖釋迦牟尼佛の足形を彫るる石に佛足形と基を一一く大六の像
を鐫ちりて記 堅石の碑に聖武帝の頃佛足石を讀みしに詠
ふ所をいひしに万葉假名ありて十七首の中よりこの歌に拾遺集に
今も同く光明皇后に陪寺ふる佛跡に記しつけらるるものと見えり
山階よりけしき移しぬる中來かきしに 舊跡に山列の科小あり
拾遺 山階ふあるにわにけりけり
二十あり二のとき使へるむむれ人のふめはむそ 光明皇后

佛足形ふし文と 千輪輪相 穀輞相 具足魚鱗相
彫りしり 金剛杵相 足跟亦梵王頂相 衆蟲相

釋迦牟尼佛跡圖
考西域傳云今摩揭陀國昔阿育王方精舍中有一大石有佛跡各長一尺八寸廣
六寸輪相花文帶相名異是佛欲涅槃北趣拘尸南望王城且耶路處近為金
耳國商迦王不信正法毀壞佛跡鑿已復本處今現圖寫所在流布觀佛三
昧經云若人見佛足跡思敬重无量衆罪由共亡滅今俱 非有幸之
所致乎又北印度鳥使國東北二百六十里入大山有龍泉河源春夏
含凍晨夕飛雪暴惡龍常雨水災如來往化令金剛神以杵擊山崖
即佈歸依於佛恐心起慈跡示之於泉南大石上現其跡隨心淺深量有長

短今丘慈國城北四十里寺佛堂○中王石之上亦有佛跡齊○日放光道
俗至時同住 修觀佛三昧經佛在世時若有衆生見佛行者及見千輪
輪相即除千劫極重惡罪佛去世後想佛行者亦除千劫極重惡罪雖
不想行見佛迹者見像行者少之○中亦除千劫極重惡罪觀如來足下平
滿不容一毛且下千輪輪相穀輞具足魚鱗相次金剛杵相足跟亦有梵
王頂相衆蟲之相不異諸惡是為休祥

文室真人淨三

大唐使人王玄策向中天竺為○國中轉法輪○同見跡得轉寫搭是
第一本日本使人黃書本實向大唐國於普光寺得轉寫搭是第二本
本在右京四條坊禪院向禪院壇披見神跡敬轉寫搭是第三本從天
平勝寶元年歲次己丑七月十五日至廿七日并一十三箇日作了檀主
從三位智努王 天平勝寶四年歲次壬辰九月七日改書寫成文室
真人智努畫師越田安方書寫 ○扣 ○智 ○努 ○

伏願為 亡夫人從四位下茨田郡王法名良式敬寫釋迦如來神
跡伏願夫人之靈魂高遶入无勝之妙邦受 ○之聖 ○永
脫有漏高證无為同霑三界共契一真

諸行无常 諸法无我 涅槃寂靜 文室真人淨三ハ天武帝自
長親王の子なり

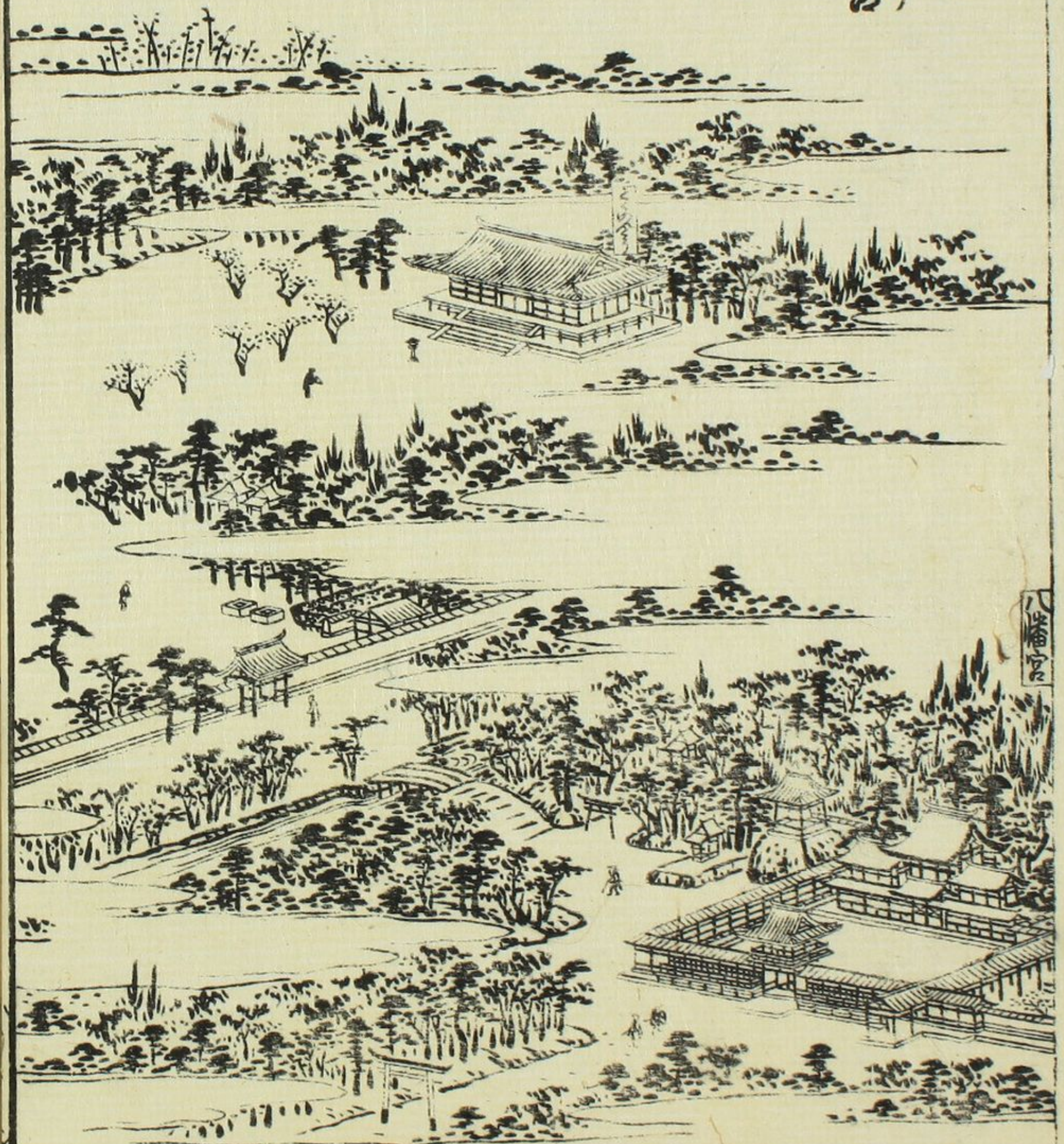
東塔露盤銅柱銘 維清原宮取宇
天皇即位八年庚辰之歲建子之月以中宮不念創此伽藍而鋪金未遂
龍駕騰仙大上天皇奉導前緒遂成斯業照先皇之私誓光後帝之玄功
道濟郡生業傳曠却式於高躅敢勒貞金 其銘曰 巍山魏蕩蕩藥師如來
大發誓願廣運慈哀荷換聖王仰延真助爰飭靈宇莊嚴調御亭事
寶剎窈法城福崇億劫慶溢萬齡

。相傳舍人親王題書云

菜原寺
其一あり



西の京
八幡宮



貞觀元年^{しやうくわんげん}に教和尚大^{しやうかうだい}安^{あん}の八幡宮^{はつぱんぐう}に^に金^{かね}の時^{とき}を^をく^くに休^{やすみ}を

孝謙天皇清生家の後世はくわんり
正統記ふまへより

大和志曰小田坊宮内於睡春次
初々築くといふ
植槻八幡宮
源公頼子（公頼子）權左衛門尉
植槻杜万（杜万）集小月人々り

郡との東にあり田を耕すは礪石を掘り羅城内の鎗よりとくや
平城宮の南門に當りけ所の字にあらいでとく人

羅城といふ郡の外曲輪の名へ平安城の羅城に東寺の西ふ今旧趾
 大武帝八年小治敏彼都に羅城門と名く日本記に云々といふ

外郭の番兵は羅卒といふ

宮ミヤ 郊キョウふふありあり天テン平ヘイ勝ショウ室シツ元ゲン年ネン十ジュウ一イチ月ゲツ南ナン菜サイ園エン新シン宮ミヤふふ

那と柳田ふり多武蔵人織冠は志く
 那と一うのそ

基陵このころん 植柳さかやなぎの事ふありし門どの時代の

二基の山ふありを子傳抄曰聖德太子白岩丸と云これ

天井村あり
筒井つゐい村あり
筒井城址つゐいのしろあり
筒井つゐい新井あり

順慶の真福寺唯識論の學に通じ且神道なるを儒道に準

同井つ筒井の底の清水を踏む多に々乃曉雲

矢田村の舎人親王の建立ありと本尊茶師如來

黒紙銀泥の法姦煙あり舎人親王の志等ありとて

矢田村小
俗矢田ちと人
秋本尊の地藏菩薩之大武大皇

山ノ知通傍正起縁
付傍正令妙明己年七月小座土にりる
玄特云々

識しんぶふすすゐゐびび 帝てい朝ちやうのの後ご白はく鳳ほう元げん年ねん二に月げつ傍はう正せいらら 秋あき抄しやう地ち藏ざう

しうけふ^すは^{うん}満^ま米^{まい}上^{じやう}人^{にん}といふあり共^{とも}余年^{ごんねん}の^の牙^は痛^{いた}ぬ

誠苦薩心信教しんぎょう一ひとなる其願小せう所望しやうぼうけ上人じやうじんと解い極ごく乃

り箕いとらひとやミ人ミ少ミ才ミと朝廷てうていふミわミふミくミ魂たまひと

君よをあそびけるある時あん炎王がたゞ宣のたまくと急いの禁いの流い生

その屍をへて我々がくわくわのちがやどし討ふ焰王えんおう

薩戒さんかいなるけこそふと志そしと奏そうに炎王えんおうこそあ

陰イン府フ戒カイ解カイふフ
 ぐんグン篁シュウふフみミくク戒カイ解カイ友ユウ不フ

年としの人ありと寒さむ大と火王えんその師し分ぶん吸く々々きき則すなはち望もち望もちの

やこのちう
矢田地蔵
こんぐでん
金剛寺



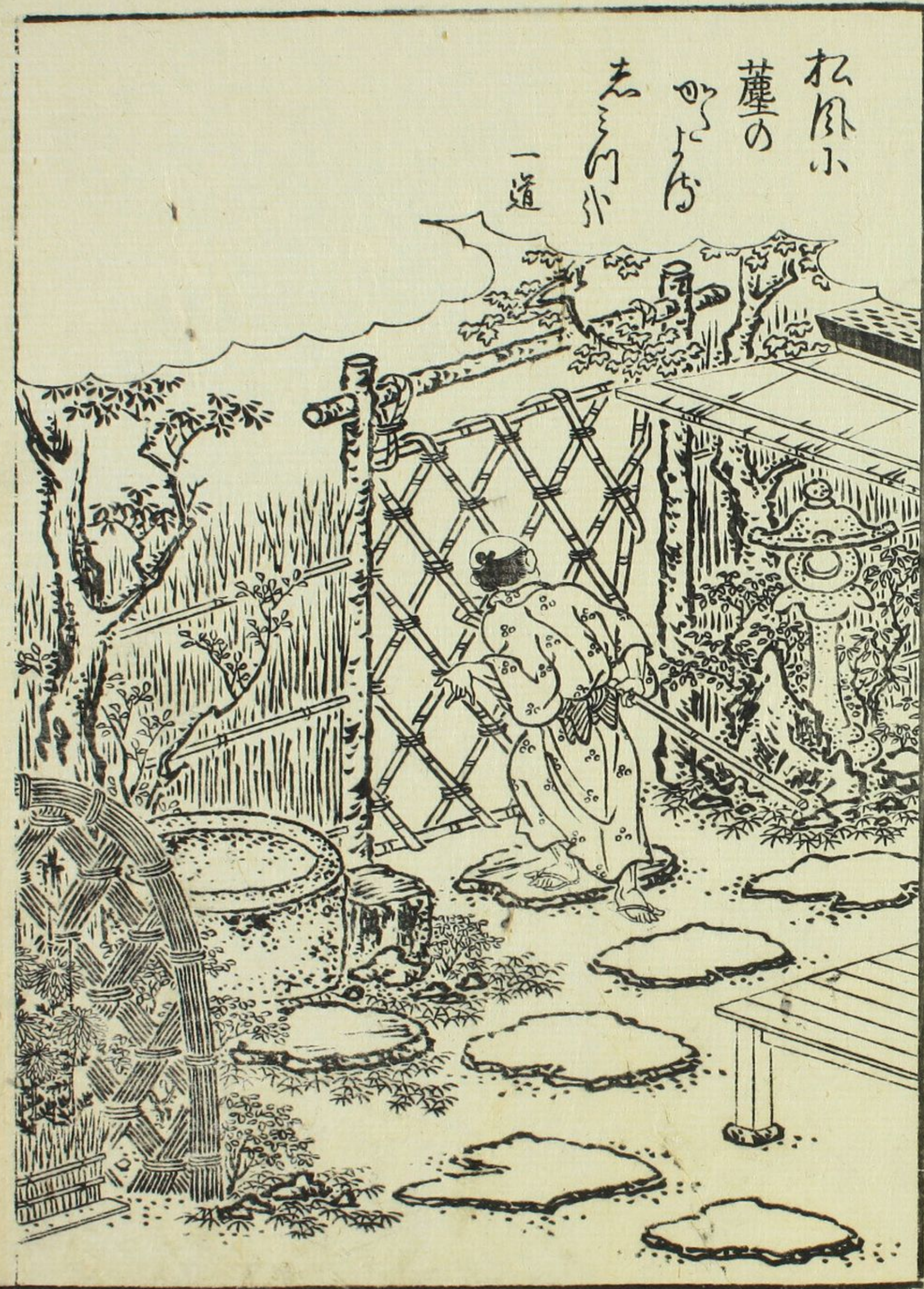
筒井

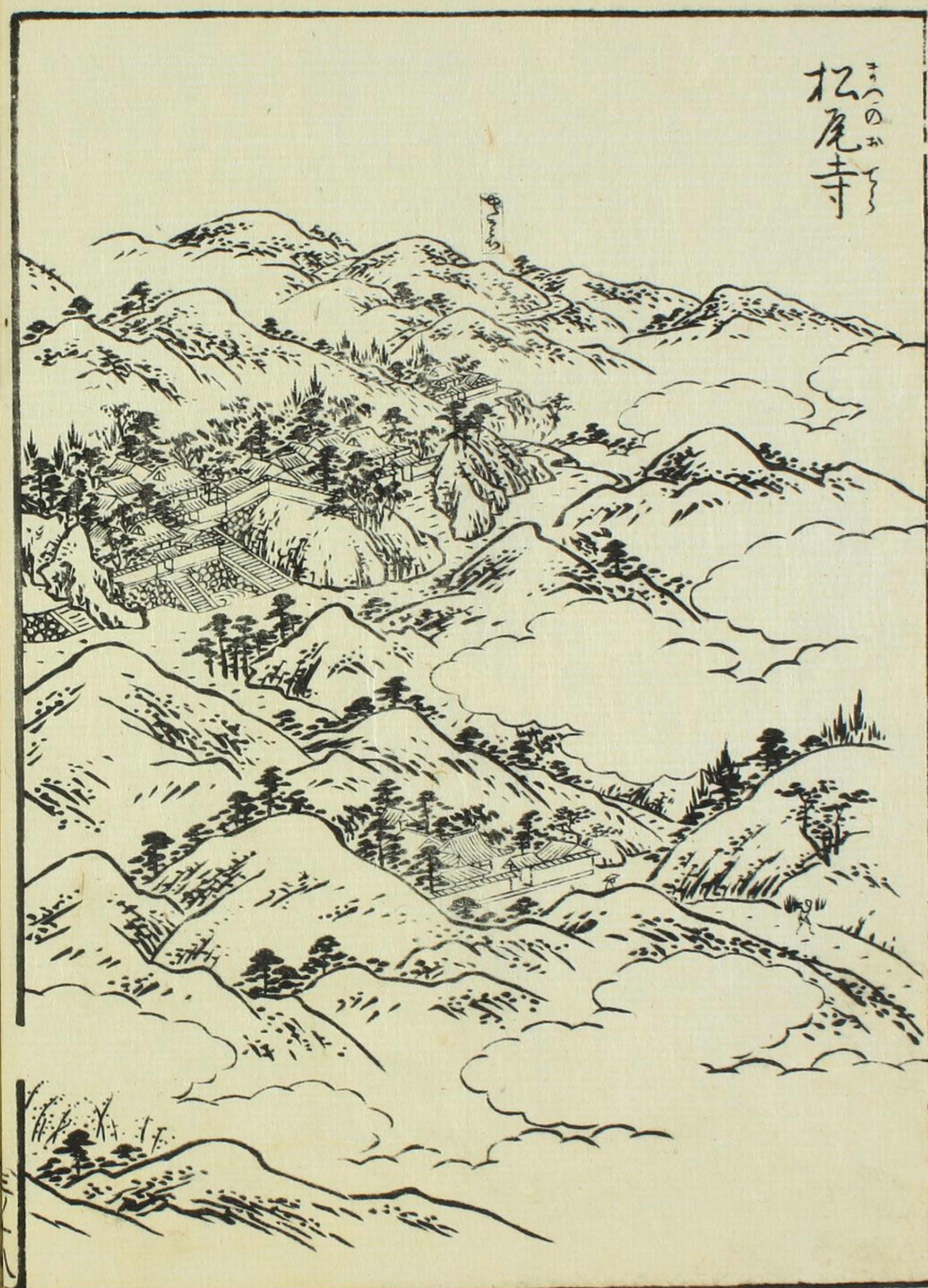
筒井順慶つゝふ
愛して茶湯ふ
月ひきこころ



松風小

藤の
の
ふ
一
道





海瀧山王龍寺二村小加藍岡基記曰和列添下郡の西小あり海龍と
いふ林壑幽邃あり松檜蔚然あり巖崖奇秀あり中巨石あり
高一丈五尺計りて十一面觀多々鑄成一梵容麗一々は
この尊敬なり左小不動明王の像あり刻むなり建武丙子三年二月
十二日大願主僧千貫行人僧千歳と識を上一字の堂ありこま
霞ふ堂の傍小伊努石清水春日の祠あり堂の後小年財大あり
けし守護の伽藍神に村民無知く山林の木石を侵とる其家
のるに禍に罹り過に悔み侵を訪のちを還とす則已とし
ふ小瀑布泉ありこれふのく名く下畧
真弓山長久寺上村小大和社記曰聖武帝の御建立いふ一七堂伽藍
の靈祀されし類廢く本堂一字本尊十一面觀名塔一基大日
如来の安坐に側に法守八王子社あり境内方二町余坊舎八宇
矣言宗と

鼻高山靈化寺伏見岡の仍基菩薩の岡基に鼻高山埋り
ふ號とすり又南大竺の婆羅門に仍基とくめく遍のの靈ふの
釈迦の御すにちなりて一の和ありち號とすり本尊の茶師如来
脇士十二神將よりふ仍基の他ふ二層塔あり法守十六所権現
あり仍基の位あり本堂のあけ方よく今小持佛堂あり

迹見池

池田村小あり日本紀曰垂仁天皇三十五年
倭使賊池迹見池に化す

登彌神社

本村小あり近隣六村の氏神
延喜式に云く

寶山寺

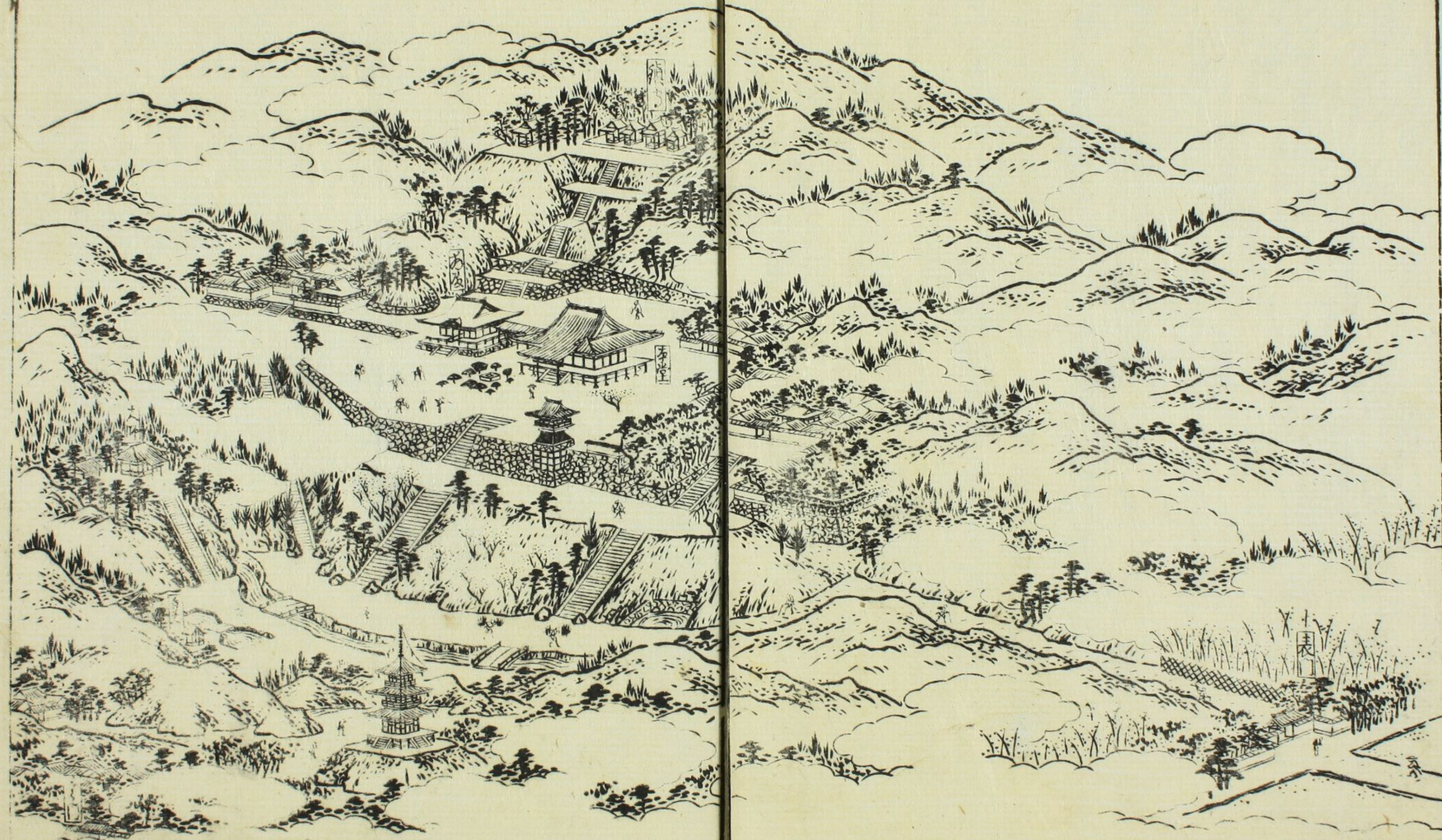
生駒の般若窟に役小角修の靈窟に中興寶山和尚本堂
小あり

の中尊へ不動明王左右に於迦羅逝多迦地藏觀多々寶山寺の
歡喜大祠本堂の傍常念觀多々堂本堂神の堂上閣本尊
弥勒佛乾の隅辨才大社舊よりけの役行者堂仍者の洞
十三級石塔婆岩嶺の上小あり内小佛舎利
それ寶山和尚姓ふ田氏勢別安懷那一色村の人へ延宝六年十月

十日始當般若窟入一笠一衣袈裟隨身一樹下小安坐以爲
夕暮小黒色の大夜叉来現一寶山捉曰汝何ゆ我こゝ来恒
より寶山の眼忽小瞋て氣絶せん其時小不動念く名號
と唱へ力十倍してぐうへい何者そと同一夜叉神若く逃去
長後若船の神小治して磐石純一の夜叉の肌層小似たり是小像
の神の来試と知より一日蘇の里人來て當の禪者并財大乃像
近世下の俗家に安坐し寶山則るわあ授一改く祠を建延寶
八年四月朔日より五日断食一八万枚の護摩を修一本尊不動明王の
彫刻を自弥勒の像を漆て岩窟に安坐其外を土圍ふ虚空藏の
安坐を觀る院を觀る人居より星霜二十年に至るまで一
大伽藍とある初大聖無動寺と号し後改く寶山寺といふ中古無
比のり者へ正徳五年正月十六日入寂 年八十八本堂の額弘法大師乃
求満く寶山寺と改じしとん 寶山寺と銘を奉にこれん
和漢三才圖會小入る

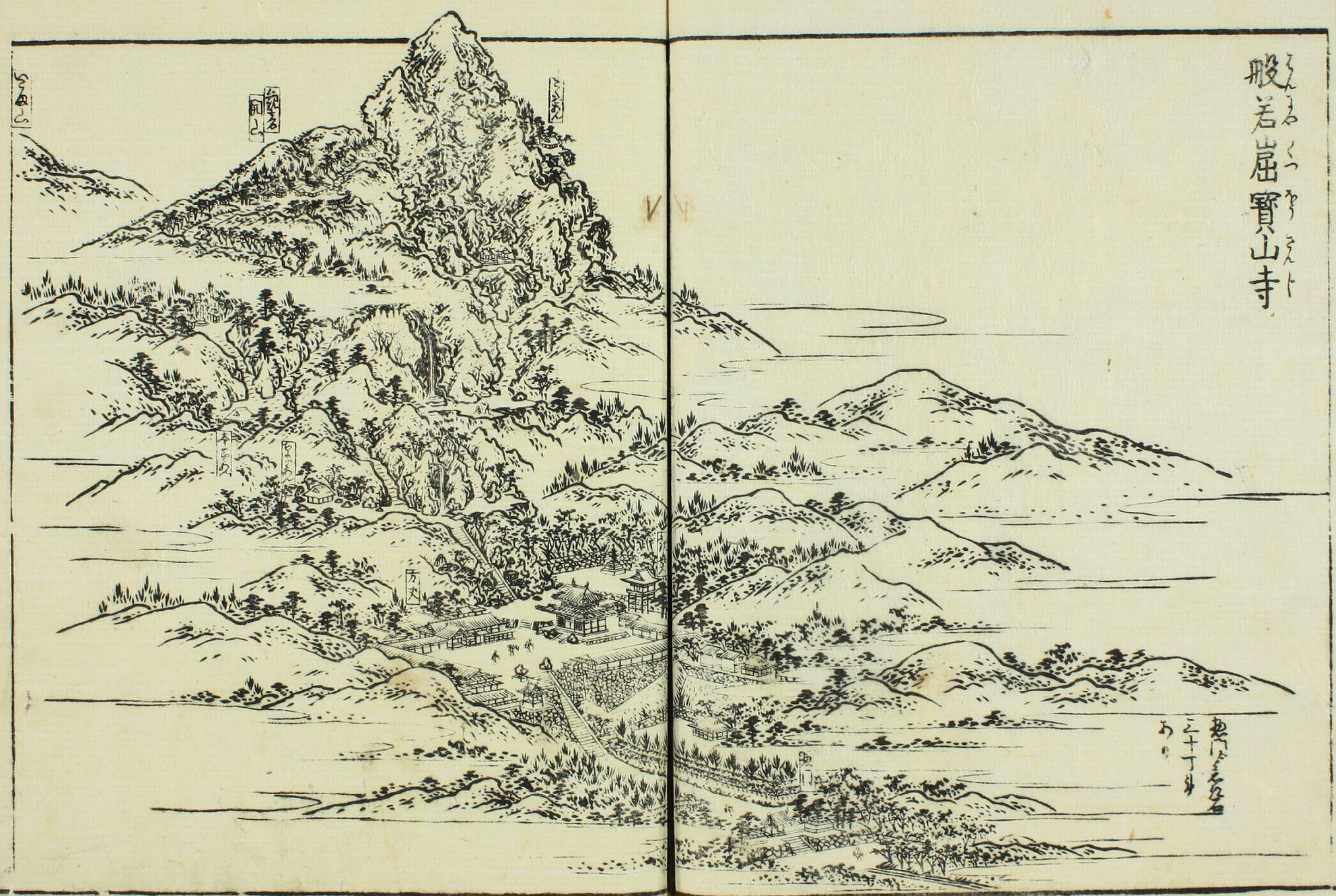
星林泉 大和志田系村小あり清く常小湧くとく早に涸る蘇雨小濁る
巖船神祠 南田系村小あり 舊事記曰饒速日尊大神御祖の詔々裏く大
般船小棄て大津に内國河上喙峯に坐し河内志曰河上喙峯を護
良郡田系村小あり今石船と號し峽中に石あり長五丈計り溪あり
石下を通入和津田系石船明神の神樂に遷き因り石船を
今其禮式廢れしとて毎歲六月晦日村民お集り禊事修と
し神坐石交所郡に属し諸別めり 鳥信 之石より入てた谷中
七八町東にわが谷の内頗廣し其中に大川がたり其里が田系といふ川の
東へ東田系といふ大和國へ延る西田系といふ内國より
龍王峯 ろふ村小あり龍王祠あり早小黒溝池
北の越 藤田村より國境まで其西私部越 清龍越 の別所村
岩船越 の別所村 幡祠 ろふ村小あり 押熊祠 押熊村小あり
秋篠川 ろふ村より秋篠川に注ぐ 大橋川といふ秋篠村に至る

靈隱寺



般若屈寶山寺

般若屈寶山寺
二十丁
あり



鬼取山 鶴林寺

榎原村ふあり
 神名帳出

棟系村小
神名帳出

西向村

福寿村小町

平群郡生野との蘆

18

1

—

18

25

18

10

玉系いづみ生駒なまがまふわ〜も秋のさふ吹雪深の糸けりるきりり
定家

新拾巻
 ちとほとみおわ〜〜人〜ていふあ〜く電わんるり
 鎌倉を食

標嶺哉

平群郡新田村は新田を多くし大坂街道之東の端よく其側一家づゝの
人其國を廻村の内其餘は内國へは所より北に約二百里倉とそれ

本條に於ては、腹つりなれむやく名くろくしといふ人は、説々非より豊後松長公
 郡山の賊、染さる人、時こそくく、本分伐たぬいゝより、今も官入の金銀
 峠とする様を願ふ字より人ゝ

鳴川山千光寺

小あり 役小角 年二十七歳に至るまでけふ小母のく

顯密のり法に依り一般若窟に日夜持念しけるふ巖間より光明
結々として千手観世主出現しあり者歡喜怡悦し昂尊像

公刻々安否一々其後大衆公ひてて彼ふう引てぬ入故一當
 公を自正堂一宇傍舎いす古鐘
 乙亥元仁二年四月 鑄

生駒谷

西畑 藤尾 萩原 小平尾 乙田 小瀬 一分 有里 大門 鬼取 小倉子
菜畑 崎 谷田 俵口 小明 以上十七村 生药谷と呼

水瀝石生駒山の名産菜畑村一分村に多く出る所の石と云ふ
 との至る若々たるので安し又堅く水瀝ぐに耐れた佳
 余國つもあり生駒の因うきやう日雜々拾遺に潮瀝石あり並石スランカステン紅毛船
 存碑多ぶ佳なり中用意乃とのとて御いあり

より市一と申すにうへより海中にうへはのみあるべし災あり
我れともあつたゆ人にまのひみちをくゆ人海あり若う
兵書の中に志が説ふ曰海上より四十万戸にいそりていそるあり
まかん人けふ言ふとそよくあふ波上るもそぬぐとて又二

入へて海上に浮るべしと云ふにあらんか
 米俵を入て海に放るは海に下の桶に海に下のふり
 びびりて海に下のふり海に下のふり海に下のふり

巖上祠

越本塚村ふあり
 神名帳出
 平群祠 西宮村ふあり
 神名帳出
 榑本社 梨本村あり今と野馬田明神と称は神名帳出

金勝寺

撰系村小あり堂のやう 雙ふた及およ之の屋や 梨本村小あり一い尤い倉くら長屋王のち
大岩あり佛像ぶつぞう 一い古ふる内親王のち 藥やく師し井い 白しろ細こ村むら小あり

法起寺

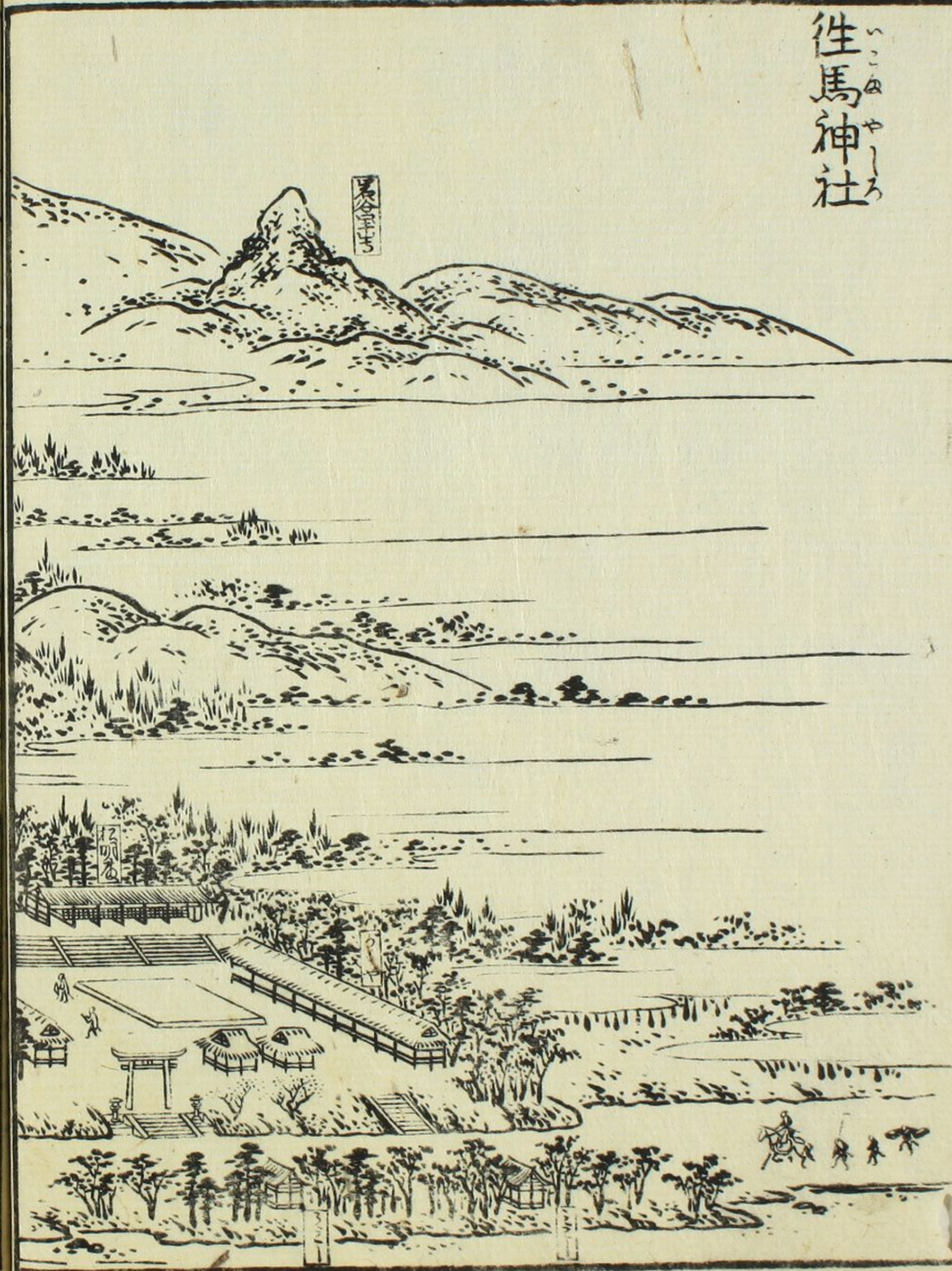
岡本村ふありを創し舒明帝十年にそれより一千余年にわたり堂舎おのり
つねに延室といひ奥足戒の律師を建ありといふ堂なるなり

駱塚
今之

井村ふあり 聖徳太子の孫あり
岡の系とも粟毛岡ともいへ
驛の跡は墓といふ



山崎



馬場

往馬神社



新子載

時をいふぬの

ふやうねん

るこつちまの

外ふふく

うり

光明寺入道
赤橋政元大長

法輪寺

法紹ちあふ井村あり推古帝年中、（建武）大兄王由義王等始くけり

舟塚

舟のあふり田記に云く、（二）井村あり、（三）井村あり、（四）井村あり

調子丸家地

調子丸の良の偶あり王林あり、（五）井村あり、（六）井村あり、（七）井村あり

北岡墓

北岡の墓あり、（八）井村あり、（九）井村あり、（一〇）井村あり

斑鳩里

斑鳩の里あり、（一一）井村あり、（一二）井村あり、（一三）井村あり

因可乃池

因可乃の池あり

富小川

富小川の流あり、（一四）井村あり、（一五）井村あり、（一六）井村あり

金堂

金堂あり、（一七）井村あり、（一八）井村あり、（一九）井村あり

高安里

高安の里あり、（二〇）井村あり、（二一）井村あり、（二二）井村あり

在平群郡夜摩郷

在平群郡夜摩郷あり、（二三）井村あり、（二四）井村あり、（二五）井村あり

春日靈現記

春日靈現記あり、（二六）井村あり、（二七）井村あり、（二八）井村あり

春日影向之靈地

春日影向之靈地あり、（二九）井村あり、（三〇）井村あり、（三一）井村あり

安堵村

安堵村あり、（三二）井村あり、（三三）井村あり、（三四）井村あり

南北飽波郷

南北飽波郷あり、（三五）井村あり、（三六）井村あり、（三七）井村あり

同村領あり

同村領あり、（三八）井村あり、（三九）井村あり、（四〇）井村あり

常樂寺

常樂寺あり、（四一）井村あり、（四二）井村あり、（四三）井村あり

安堵村

安堵村あり、（四四）井村あり、（四五）井村あり、（四六）井村あり

聖德太子

聖德太子あり、（四七）井村あり、（四八）井村あり、（四九）井村あり

十六ヶ所御建立

十六ヶ所御建立あり、（五〇）井村あり、（五一）井村あり、（五二）井村あり

其一

其一あり、（五三）井村あり、（五四）井村あり、（五五）井村あり

其謂

其謂あり、（五六）井村あり、（五七）井村あり、（五八）井村あり

維千時

維千時あり、（五九）井村あり、（六〇）井村あり、（六一）井村あり

長六十年

長六十年あり、（六二）井村あり、（六三）井村あり、（六四）井村あり

次代子

次代子あり、（六五）井村あり、（六六）井村あり、（六七）井村あり

三百二十年

三百二十年あり、（六八）井村あり、（六九）井村あり、（七〇）井村あり

已年伽藍

已年伽藍あり、（七一）井村あり、（七二）井村あり、（七三）井村あり

破壊小

破壊小あり、（七四）井村あり、（七五）井村あり、（七六）井村あり

及り

及りあり、（七七）井村あり、（七八）井村あり、（七九）井村あり

と恵心僧都

と恵心僧都あり、（八〇）井村あり、（八一）井村あり、（八二）井村あり

詔けり

詔けりあり、（八三）井村あり、（八四）井村あり、（八五）井村あり

諸堂再

諸堂再あり、（八六）井村あり、（八七）井村あり、（八八）井村あり

金堂

金堂あり、（八九）井村あり、（九〇）井村あり、（九一）井村あり

弥陀尊像安置

弥陀尊像安置あり、（九二）井村あり、（九三）井村あり、（九四）井村あり

觀音堂

觀音堂あり、（九五）井村あり、（九六）井村あり、（九七）井村あり

太子堂

太子堂あり、（九八）井村あり、（九九）井村あり、（一〇〇）井村あり

各十二坊

各十二坊あり、（一〇一）井村あり、（一〇二）井村あり、（一〇三）井村あり

并飽波村

并飽波村あり

り

り

り

當時御室御所直末寺あり
 寛弘三丙年
 飽波神社 安堵村 總社牛頭天王 大和志 神護元年四月 幸飽波宮給

惠心僧都詔とけちなりて奉遷當社地御鎮座聖德太子戸垣宮

皇居の御時東五色雲靄靈釵の見御夢令占給是三種神室靈釵也

素盞烏尊先頭牛頭天玉の化現なり太子始牛頭天王小祠神籬と

立給太子の御宮地あり太子守屋大連御對治の後詔安堵牛頭

天皇御崇敬成給云々 末社 熊野權現社 春日社

住吉社 外二社 燒の井 飢人といわれと云乃ある 其教

飽波乃里と今更少けれどか安堵と名傳ふ初る 阿上人

朝日山 安堵村 太子小金塚といふ所は鷹塚 同所南太子御所持の白鷹

平樂寺 同所小 大和志曰昔在窪田平樂寺是夜一郷常樂寺の礎跡角之坊

高安寺 同所乾 大和志曰高安村往古常樂寺礎跡あり此地飽波郷夜麻郷兩界

地蔵堂一宇造立に 中興阿上人住より今高安村小坊修りあり

鳴川と
 千光ち



鳴川
元山
上



法隆寺 平群郡 舊名斑鳩寺 法隆寺 人皇三十二代用明天皇の皇子

聖徳太子龍田明神の御子 斑鳩の地に伽藍を造る 一名七徳太子

金堂 倣々として 西に輪藏を造る鳥路を

号し東に鐘樓あり北に講堂あり南に法隆寺同様の山門を

の社頭あり 寶藏あり 南に法隆寺同様の山門を

金鼓の二口あり上堂奥院大湯屋伽藍等あり

凡宝鐸あり 信をば法の尊と云ふ 南都七大夫の

金堂 大和社記曰金堂は四方面より釈迦の三尊 勢化多佛師の

化あり 令佛之九の業師如來を用明天皇の御心祈のより他

あり右の御心祈のより他あり 持國天の御心祈のより他あり

大あり 佛師所造の金佛之其前に 持國天の御心祈のより他あり

増長大の孝謙帝の御心祈のより他あり 推古帝の御心祈のより他あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

光明皇后の御心祈のより他あり 虚空藏菩薩其脇に 阿弥陀佛あり

大經藏

靈寶錄曰經論聖教多々納るに本尊の鉢陀佛を日比に
い内小伏藏あり當に三伏藏の一つなり

手水屋

天皇詔曰後醍醐天皇臨幸の時手水所之
藏王権現の安座に役り者の所也

三經院

天皇詔曰本尊の鉢陀佛の基に文殊弥勒四天王
毎年一夏九旬を子所遺願の三經講談あり今に級に

七種寶器あり釈尊より勝鬘夫人に授けり今に級に
を子所自外願に手水の皮を折り入真鍮子神代皇物之賢聖顯
春秋飄々として孔子等れ聖賢の像所足印を子所足の所を踏み
一の梓真子六目獨守屋大連の所退治の時軍器より其外畫像
書軸のそくあり

聖靈院

俗小を子堂として入皇を子攝政東帝の遺像あり大兄王子
殖栗王子茨田王子惠慈法師已上を佛所の外にそくあり

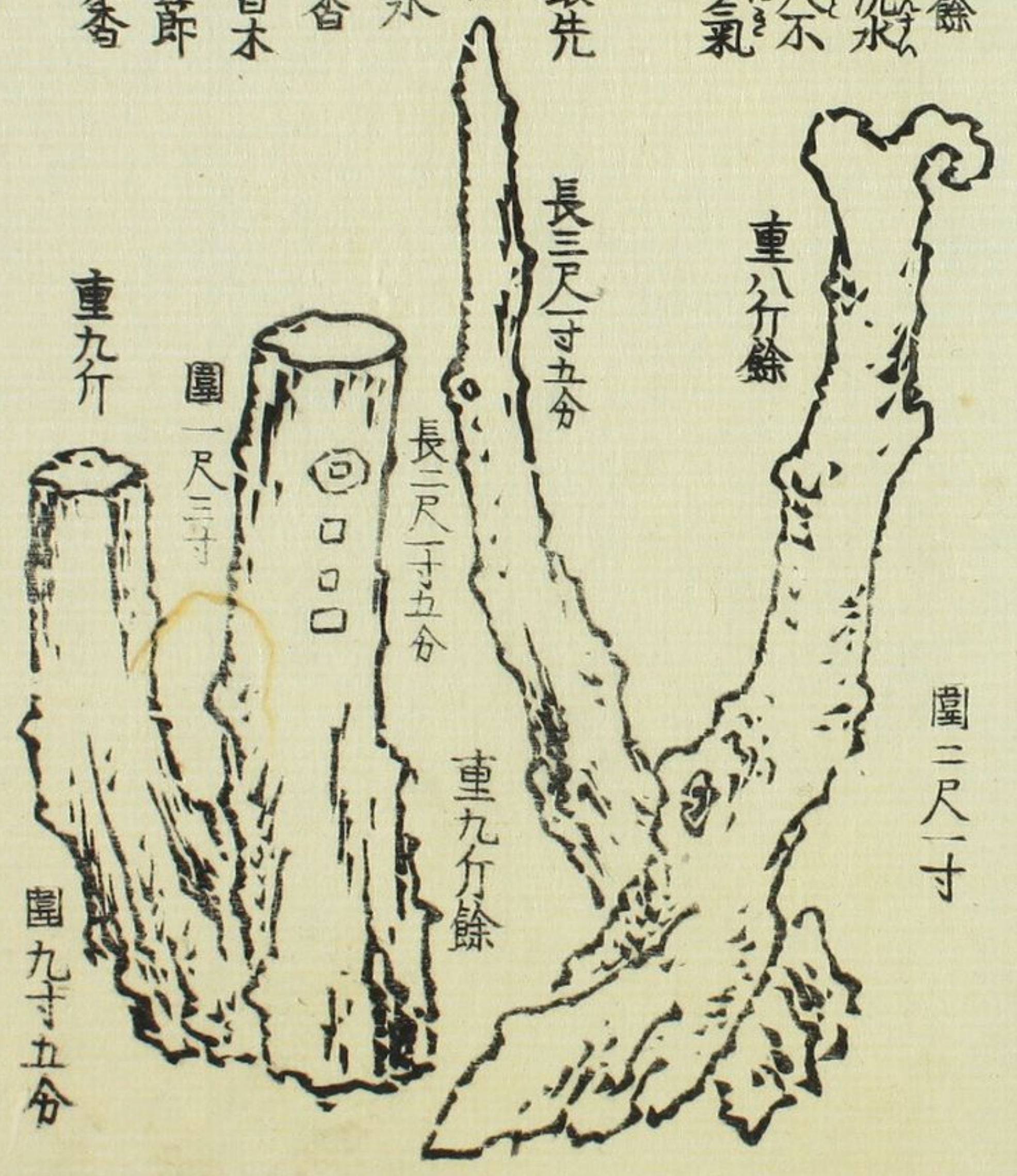
沈水香推古天皇の所中土佐の南海より淡路島に漂ひつれりは香木
はやく本尊の傍り移ひ其後子に藏に納りては是天下第一の
名香ありて旃檀香と在に法隆寺とるべく是あり

沈水香之圖

惣重

日本書紀曰推古天皇三年夏沈水
漂著於淡路嶋其大一圍嶋人不
知沈水交薪燒於竈其烟氣
遠薰則異以獻之

南越志曰大列有蜜香樹欲取先
斷其根經年後外皮朽爛木心
與節堅黑沈水者為沈水香
面平為雞骨最麗者為棧香
梁書曰林邑國出古具及沈香木
土人斫斷積年皮朽爛而心節
獨在置水中則沈故名曰沈香
次不沈香者棧香之屬



大明一統志曰檀香出廣東雲南占城真臘瓜哇渤泥暹羅三佛齊回回等國今
嶺南諸地亦有之樹葉皆似荔枝枝皮青色而澤
楞嚴經曰白旃檀塗身能除一切熱惱
華嚴經曰摩羅耶山出旃檀香名曰牛頭塗身設入火坑火不能燒

靈宝録曰 御鏡二面 四大王紋錦旗 糞掃衣 伎樂殿 上代鈿舞 古代大猷
御禊 雷琴 銘曰開元十二年歲在甲子五月五日於九龍縣造 其外云々あり

律學院 聖觀音 愛深明王 宗源寺 常念佛修めり云々

東院 日本紀曰推古天皇九年二月皇太子初宮室以班鳩に興に
古今同縁抄曰此地班鳩といふいづれが教万葉り常に下り居くた人
其所に宮を造り班鳩宮と名づく後にさくる

夢殿 八角宝形堂之上光院より上宮王院ともいふ 其宝録曰本尊觀世音菩薩
聖觀音東面九面觀者 此西を子像沈水香よりく太子聖化乃觀

聖觀音 每正月十二日開扉あり
所順記曰推古天皇九年堂入道殿通長よりせり云々

大君の御名をいふはさくといふは後殿よりいづくといふらん

舍利堂 南無佛舍利 釈尊の左眼を太子三歳の二月十八日に東方方角向ひ南
無佛と唱へ開けし所堂の内に出現しぬい 舍利とされし有るは乃

尊號あり又佛法最初よりこれより見佛開法の舍利とす 其の折は弘舍利
へるものあり云々 勝曼夫人とすなるは世尊の説法に振衣心多
にさくくし迷ふは貴人にもいふふありらん 涅槃のけりれ後世尊
の左眼の舍利は得たり云々 杖末略記に云々あり 所順記曰舍利堂を護持堂と

いふ毎日午の上刻に鐘七聲なり 舍利堂なるは鐘聲をふみひり
王塔の舍利はさくく城に万徳満の形ありぬを利益益元生の光あざやうり
ゆ 其の折は弘舍利の月朝に黒点一を現し日々に増して十五を満と十六日
より月々に減く北日ふいふと云々いふものあり

南無佛の舍利はさくく七の鐘なり 其さくく今の双調 紫式部
法清寺の舍利の所なるの歌をいふ

さくくあり 病の林けりみとていふはさくくいづれ里 慶富内院
靈宝録曰法義經の首題用明帝の表 法義義疏四卷 太子の所直を足

本朝に書割作の始に洞簫推取くけはるは吹くの時と神をさくく今の蘇莫
者の舞をいふ 鑑録 石名取王 火取王 水取王 太子所初推の時所所持に
鑑守を是等の時をいふものあり

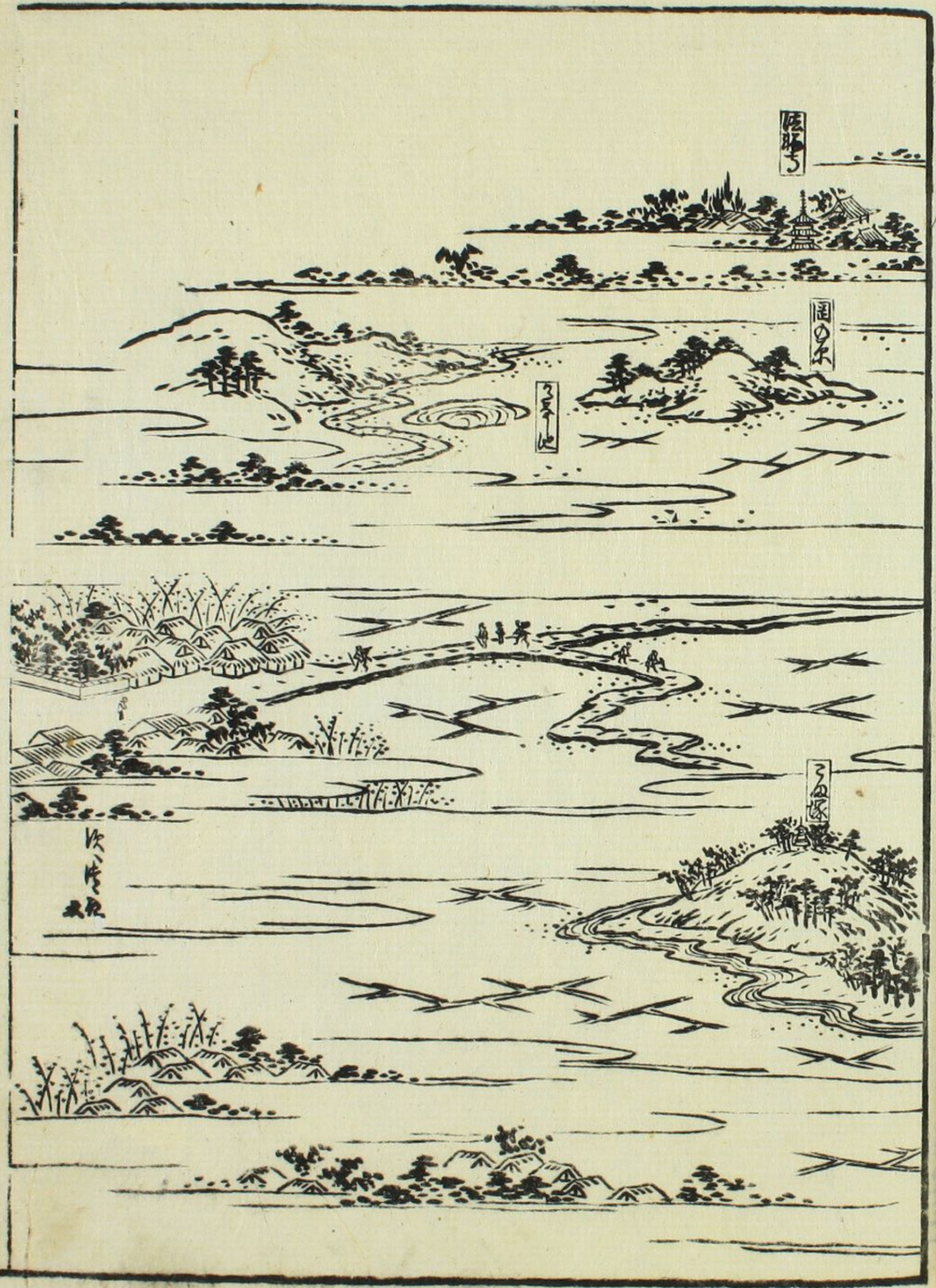
繪殿 武殿院と号し 其太子一代の今圖を手にあつてなり又後藤院
延久元年持津國奏致具これと書に

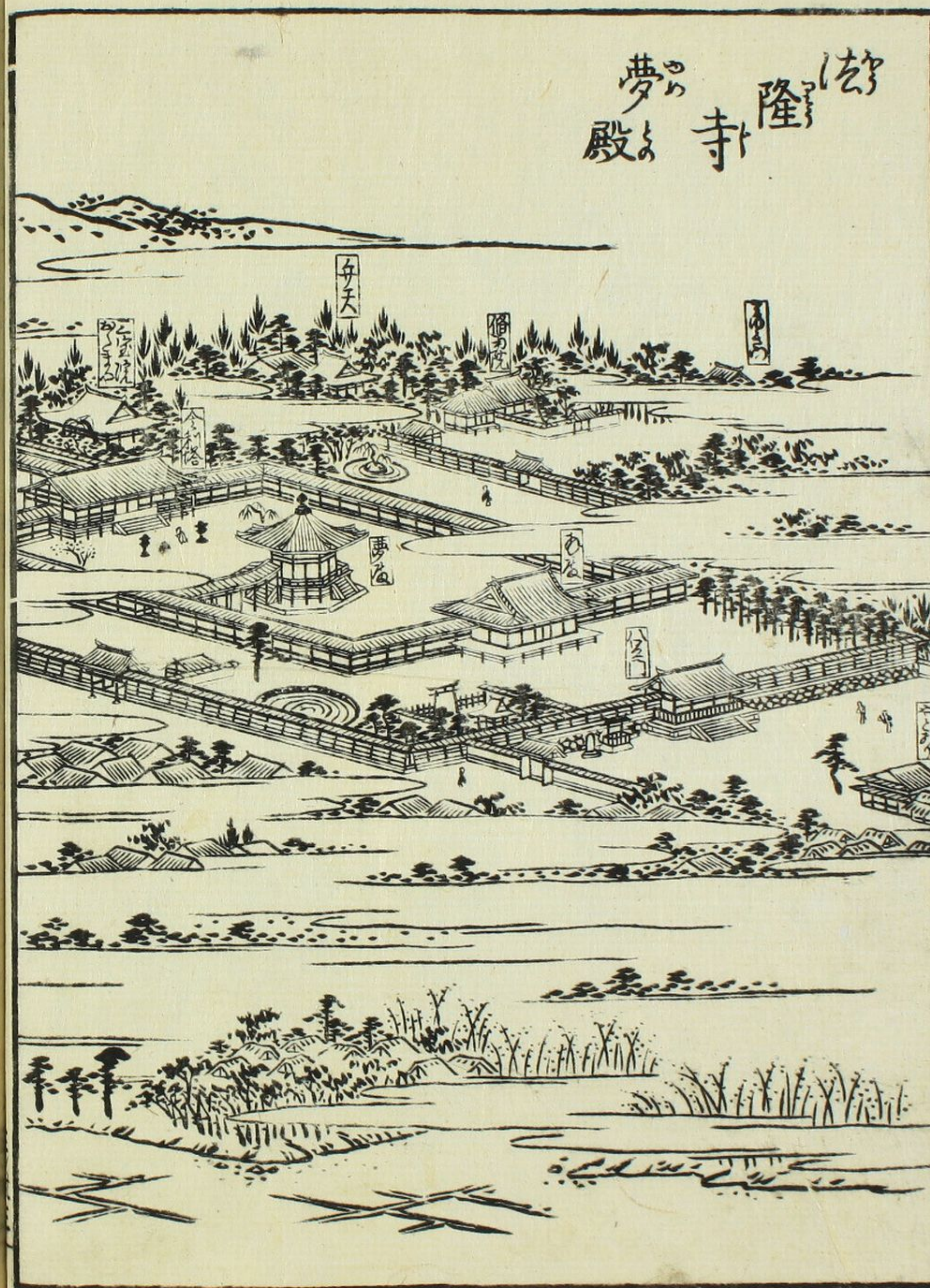
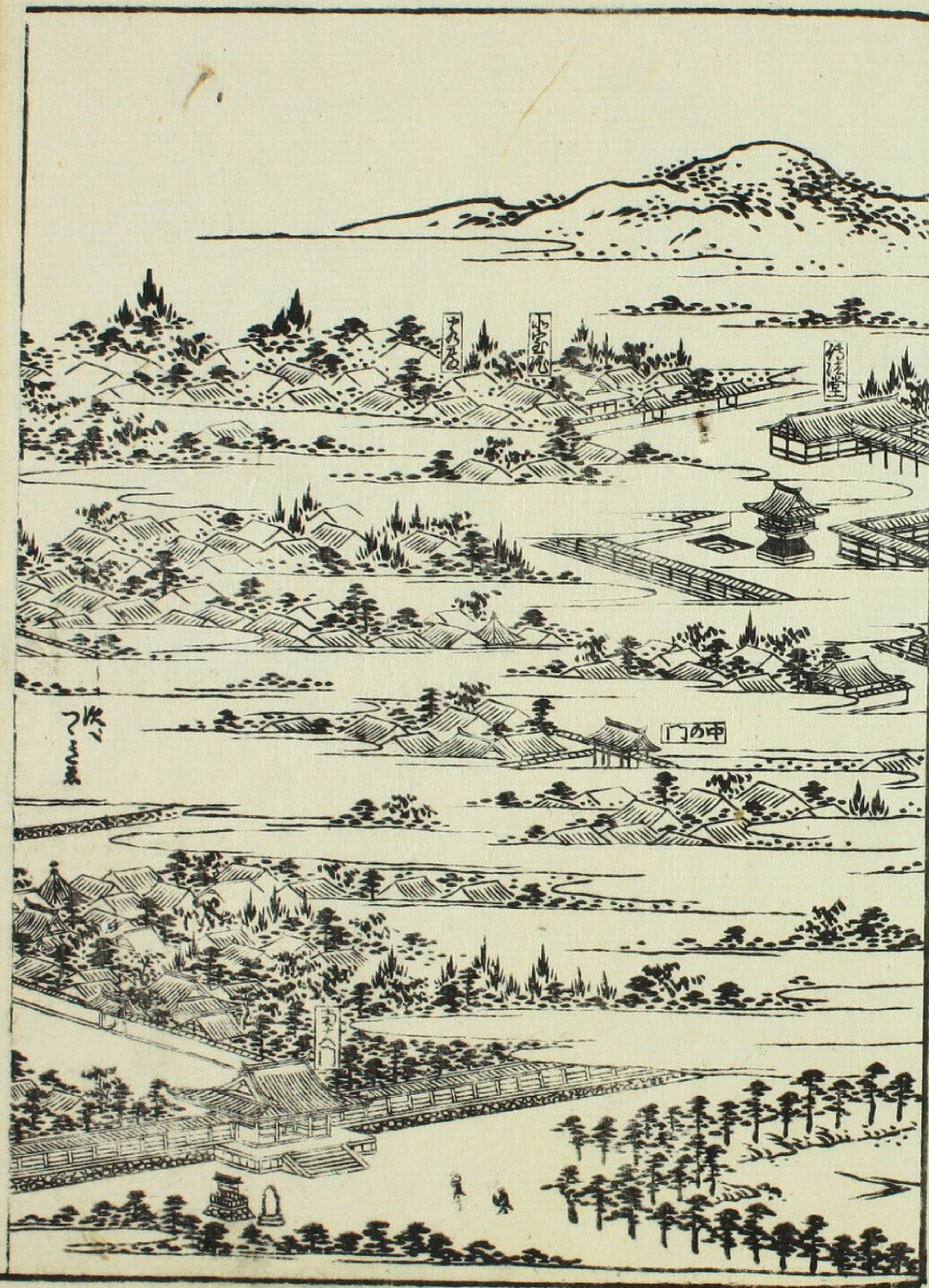
後藤觀者あるはさくくの時折をいふとて是を愛するなりと云

御相殿 靈宝録曰太子七歳時新聖武帝の所化而海國より来る
所海披人の衣に

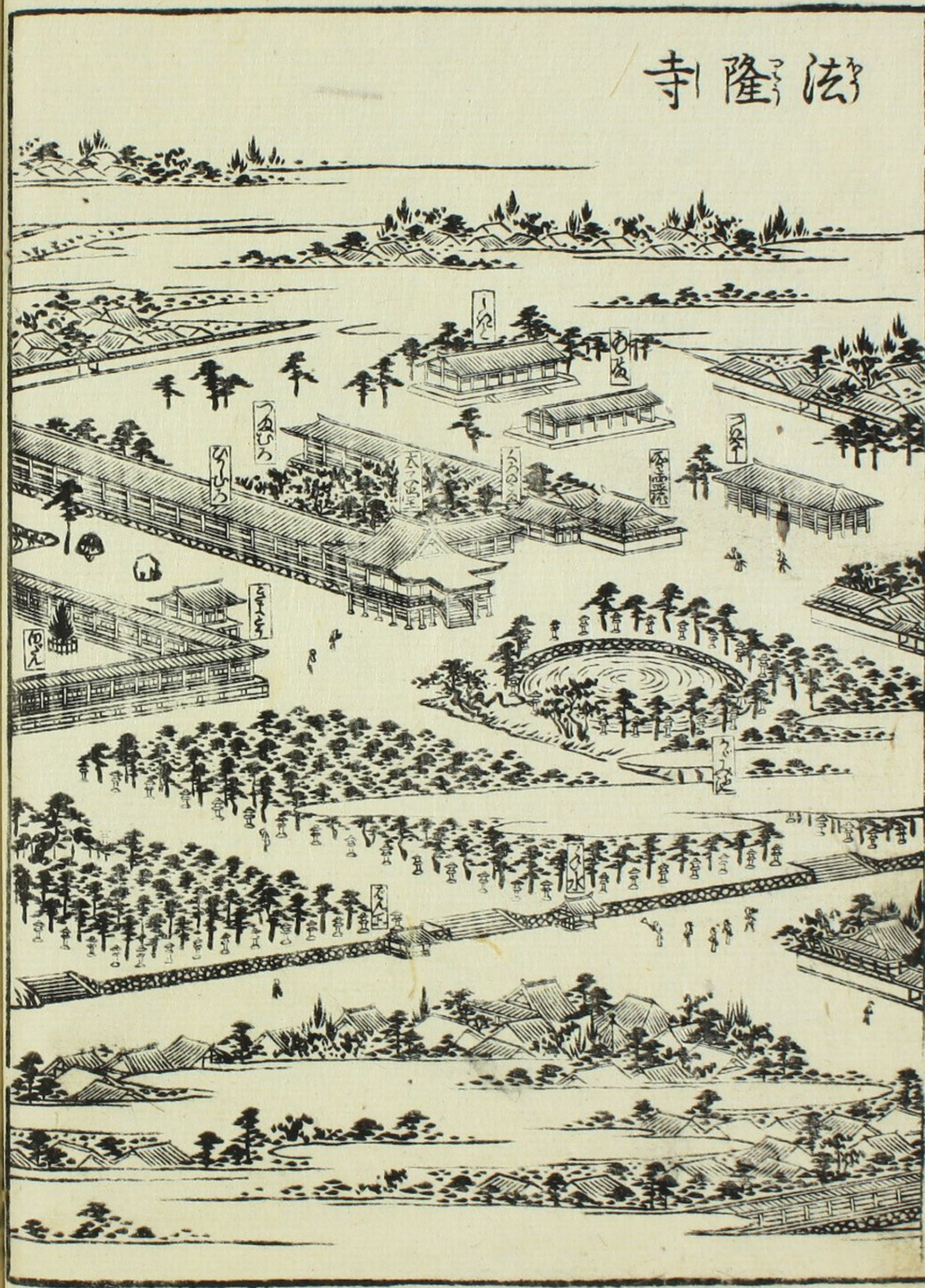
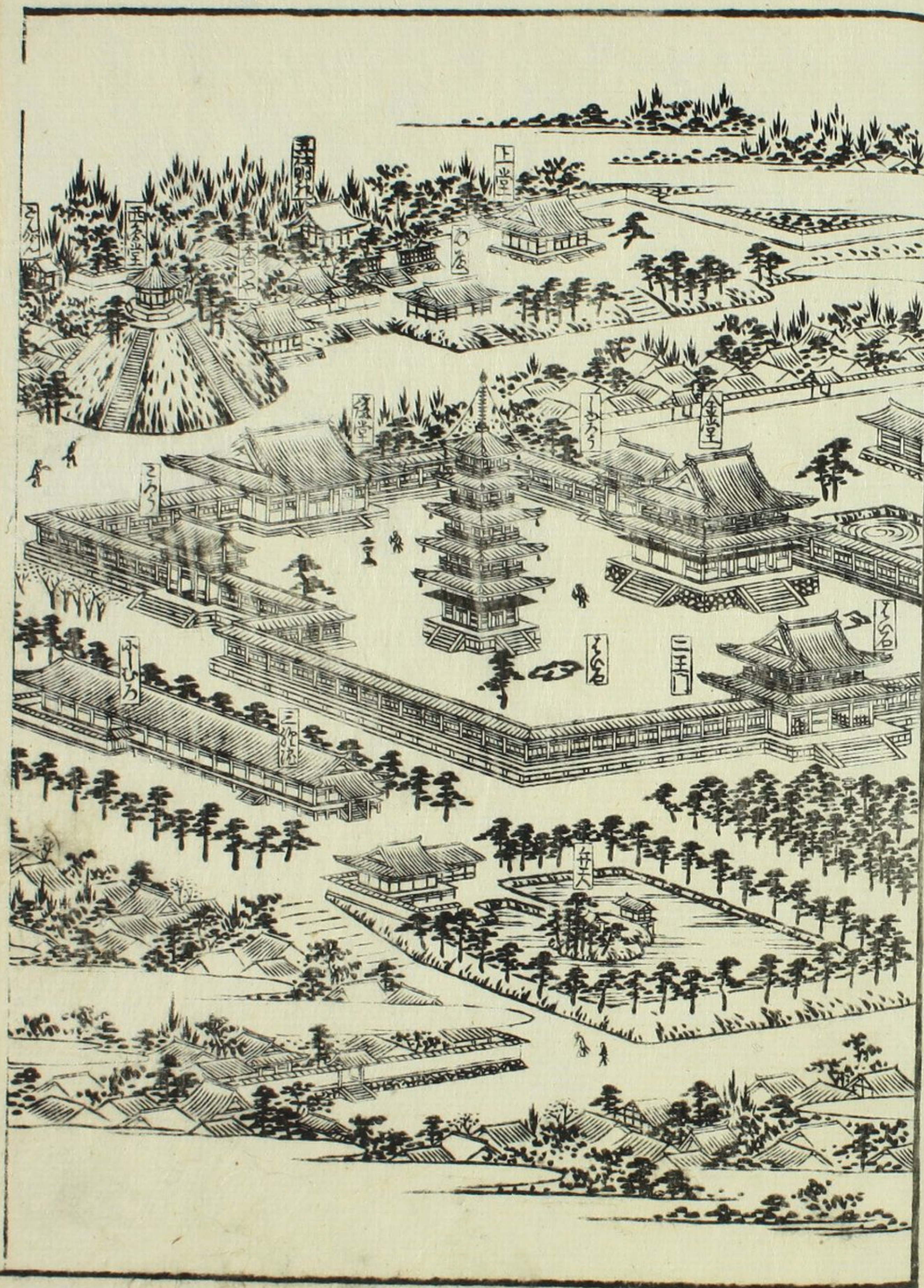
傳法堂 本寺の所法陀之尊九品淨土の持に
脇壇に觀者勢至千の十一面地をさくく安んずる

斑鳩里
法橋寺
約塚





法隆寺



三寶院 靈室孫曰將軍家代々の所教安長より子孫傳へる
外題後水尾帝宸筆 尊氏將軍書 義政將軍書
新田義貞自筆狀

禮堂 靈室孫曰本尊觀者梵天帝釈 鳥仏依他 誕生佛 赤旃檀二尊
舍利如意輪 舟大 彩巻蕪曹菩薩面 同將吏 南無佛舍利裏

左子所興華鬘 獅子頭二口 鞞鞞 北鼓一鼓 三鼓 駝太鼓 舞樂面
振鈴 裝束多 右大將頼朝卿所寄附

北室律院 冥室孫曰本尊の法院二尊を十六歳影曰二歳影

中宮寺 大和志曰法隆寺良の隅にあり一名班鳩庵ををみ所母とのと
本尊二臂如意輪の像をたの聖化く當ふふ大壽國の曼陀所あり

莊嚴微妙ありてわりの大族のこころが電甲一百にりつゝあり一甲ににやふ
めい合せり銘に別記に書け

正覺寺 本尊大目如來 不初の王弘法大所化 明王院 本尊不動尊 智證大所化 左の二歳影

觀喜院 本尊歡喜大 荒沖十二天 新堂 本尊茶所のそ 圓成院 本尊千の觀者

如法經堂 大満宮のありあり 十羅刹女 脩南院 本尊を十六歳影 各々あり

常樂寺 本尊五智如來 大般若毎年修りあり 金光寺 本尊上堂といふ 藏王堂 本尊藏王権現

御廟 左の所廟にゆてりあり
沙うーいーとこりいの所墓ををみ所の所あり

常樂寺 法隆寺村巽古市場ふ一宇のゆたかりのこころあり

芦壩宮 古今同派抄曰聖徳太子崩す人所の俗に神屋といふ今もその崩す

神を村にあり又聖廟神臺の大安なる縁に飽彼宮といふ崩す人
と人へりけを飽彼村あり只思入上宮王院も芦壩宮といふ

菅田池 菅田村あり

意とのとをいれはふありそとそをみる人をもていれ

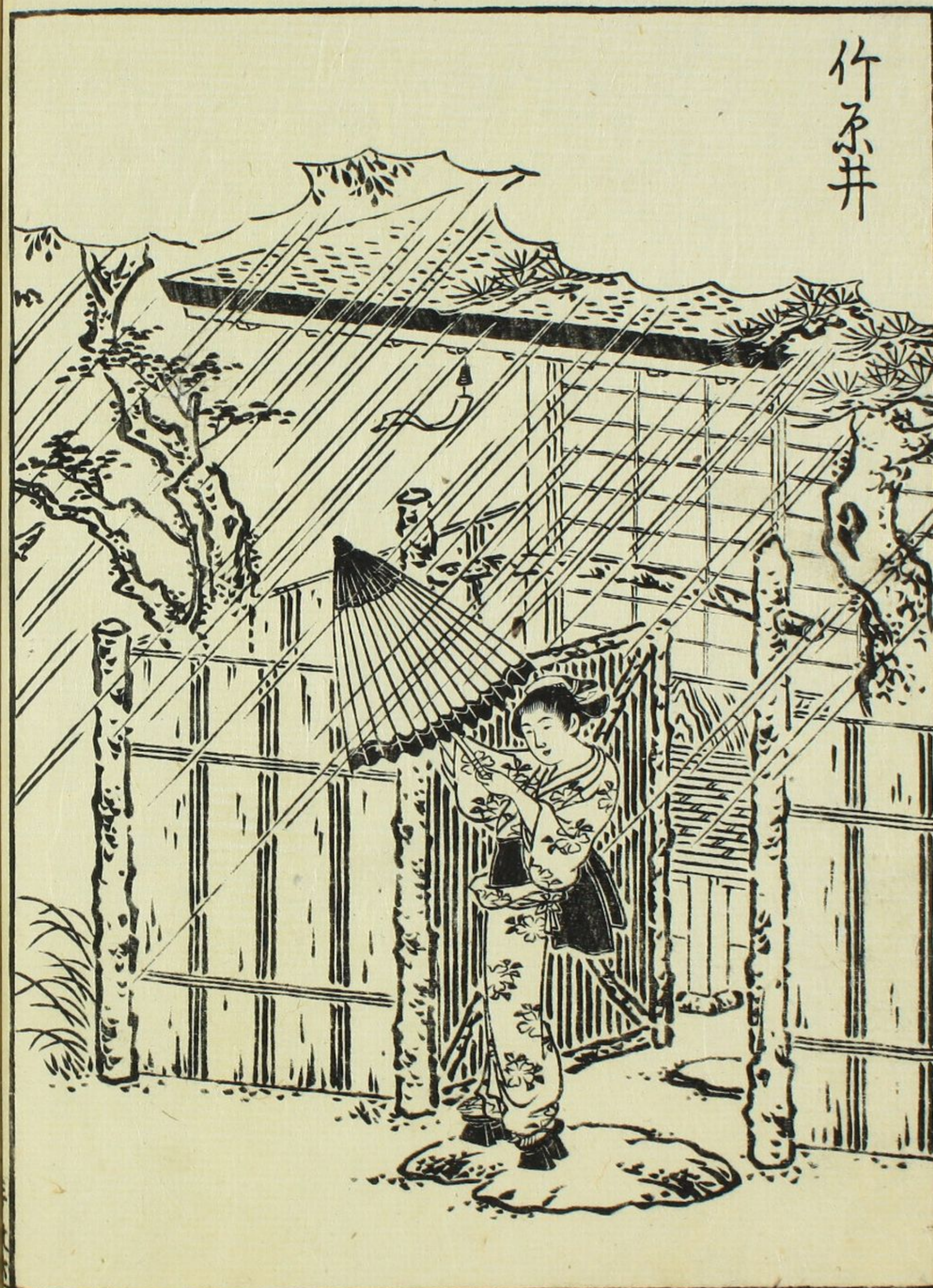
額安寺 額田郡村あり本尊十一面觀音推古帝所上宮をよこ味定なる

日推古帝所額に推しん推しん人そをいふは茶所像を所造るの所預に

竹原井 推本村の辺あり 清水墓 新田村のあり 花部墓 西里にあり

朝ふくまのそをいふとそをいふお茶をいふ人

竹原井



奇枕
そらうの石井の
あやあやん
新田れい乃
八月五のに
光俊

龍田新宮 法隆寺より六七町神あり 糸所竜田比古竜田比女神社二座 延喜式

新龍田と推古帝十三年二月十五日上宮をよみ法隆寺に建つるひ
あんの勝地なるひの巡りあり平群の川より西坂へ東へありひ
よせと多ひに龍田明神老翁に化しゆくく伽藍の勝地な
るへられ我々守護神と云ふ人の神ありたふしけ神告ふるく
法隆寺に建つる龍田明神とむく宗神天皇の清宮に龍田と乃
孝小法隆寺の龍田の糸礼の良法施の庇傍二十人法隆寺より
なりとんとありそれより永くほくつらなりなりなりなりなり
往をくくく安にくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
鎮守と云ふ

龜瀨 新田の事一候御越龜瀨越々々聖使をよみ
ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

般瀬杜 神木の東車村

立田川より君名をどきみいふの杜いふとを思ふ

新勅撰 のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

神あいの岩瀬の杜れ時をくくくくくくくくくくくくくく

夕暮と夏より外なりあいのくくくくくくくくくくくくくく

神あいのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

毛無岡 洞安村あり立田大橋より四町むくくくくくくくく

古のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

我でくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

上 澄月寺枕神有備篇

ぬくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

二田屋 澄月寺枕神有備 或曰法隆寺の鎮守はは宮の前の地へ

立田新宮



續千載

立田川氷の上に

のびてたり

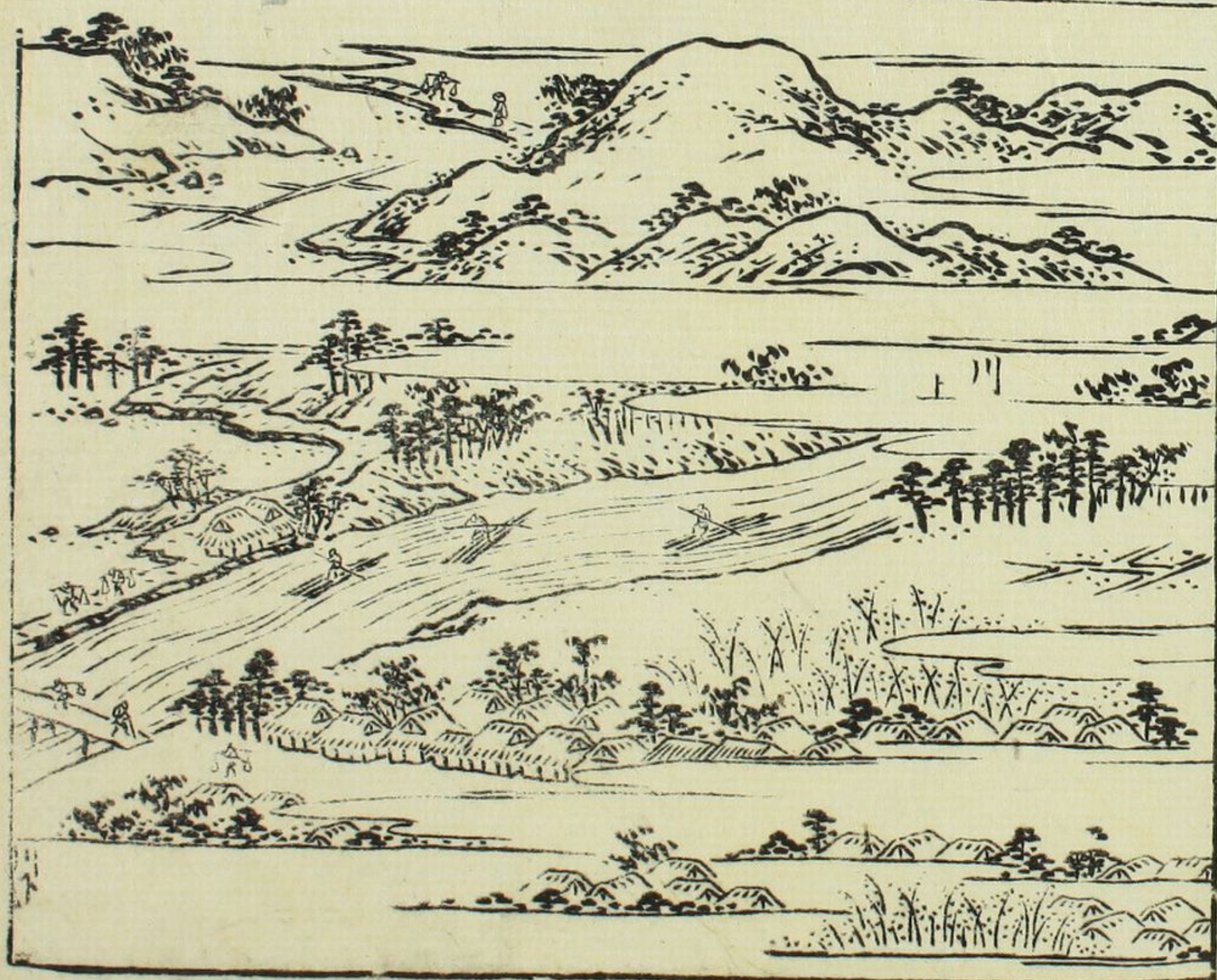
神代もさうね

おののまゝ

軍國冬

その川

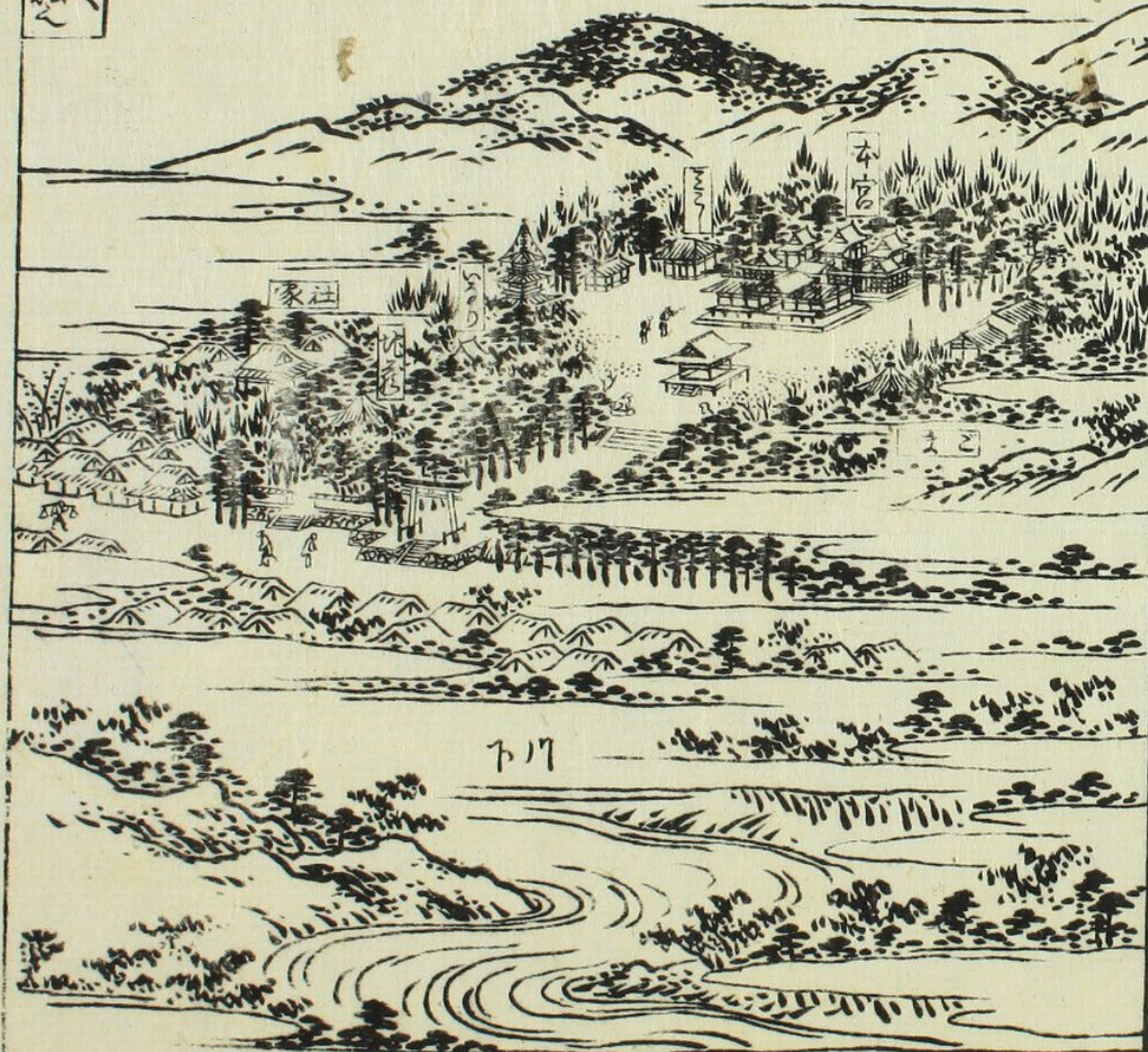
立田川
その川



龍田
本宮

新参
白雲の
立田れ
八重橋
いつか
あかん
道念法師

山
つた



下川

上川

信濃山



神有備
二室界
お系川
般瀬杜

後拾遺
あ〜〜
こ家のこれ
お系川
立田の川
新うり
徳田法師



新田
新うり
お系川
立田の川
新うり
徳田法師



龍田川



夏
ふも振代

こく

龍田川

あつるわ

あつるわ

紫雲



井い・燈あかり・拵もち・云い・大和おほ・ふふ・神かみ・南みなみ・のの・二ふた・室むろ・のの・不ふ・混まじ・乱らん
神かみ・南みなみ・のの・蒙もう・しし・よよ・めめ・もも・大和おほ・ふふ・るる・りり

神
三月時辰いさゝかゆきうにききとふりてけしむいの杜　漢人ふき

ちとる社をひのふきふきひきふき梅入との

まふ神あひにけはるうのふなりふ吹の花 八武長実

おふみ一こた棧かたもきつて白ゆへ命いのちは神かみさひ乃のとら
園い豊に生うま

陸今ふく今補る今川今糸今冬今今や嘆らん
山吹乃今もふ
摩見王

澄月秀枕神甫值

山にぬるうら秋にゆくひのわさけふ系乃あれ下くこ 夜笠大匠

神南村小あり
 神名帳出
 猪上神社
 信々小あり
 神名帳出

猪上神社
信光公あり
社名帳出

信貴山觀音院朝護國孫子寺々庵山明蓮上人々當初聖德太子宮軍

守屋大膳は攻めひしに大膳の軍を痛めて官軍

[illegible]

樹のてふ多に石の多に

貴人々々々々白膠本より四天王の像を拓み御覽に収めて

更に進み人斬り性約山の権めくく老武者二騎忽と味方

に法うはのしりそそくく修羅をもあざむくぞと猛將なり

一人の多太郎とめされ一人の坂本太郎とよひてふいふ。〇

軍功と人を多小明とす一遂に守屋を討たれと唐雲に命じし

物々かくは扱ひの多門大の石棧石たかの上小方せうほう一丈の殿舎てんしやを建つく築つくひこ

信貴山の昆虫大足より其時皇太子けふに向ふを待つと信ど

へー貴むへーに富むへーより信ずるへーといふは

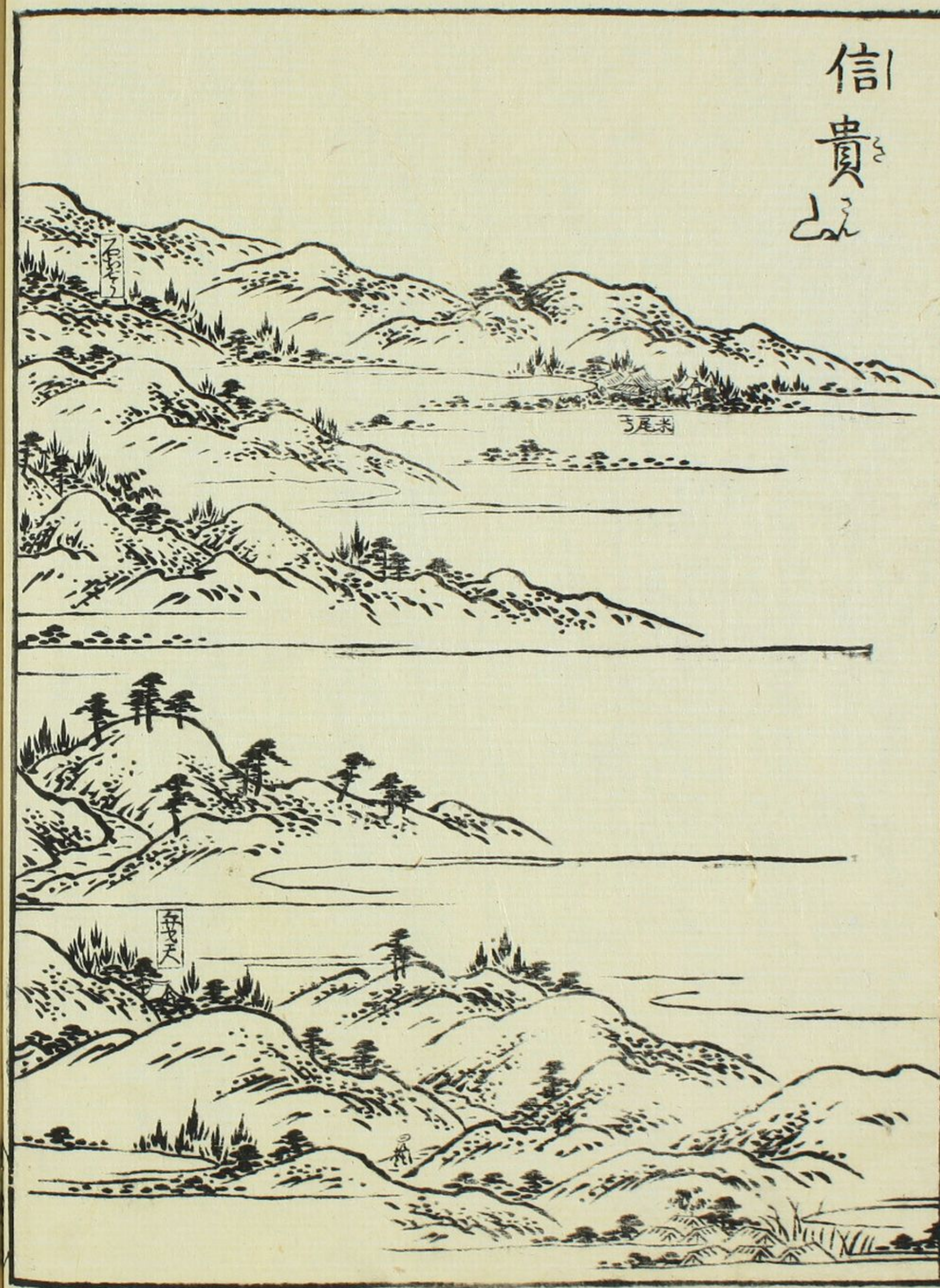
大和さ社記曰昆山門堂より十五六町かと藁に信その畑より人所よりありいふ
け所の信氏不信心よりいふ昆山門いふ所せうといふ一郷の草を繁れ末葉の定
めりんとく焼めたるが今ふあり土を堀を焼くも是

止むといふは、人々に其の死をいへ
大和が社記曰く山の頂に古城の跡ありといふ一寺川毒藏といひ一武士築

止大和ち社記曰山頂に古城の跡ありといふ（吉川春藏といひ）武士衆の
とくともや其後大正の仲ね永痛臺は城の跡ありといふて鐵田
系であられ城の跡なりといふ

大和志曰立野村ふあり大武天皇八年始く園なるとに置入大文に

立邦國錢の収む佐々のお堀に人々とり



This is a black and white woodblock print illustration of a landscape. The scene is composed of several elements: on the left, a large, gnarled tree with dense foliage; in the center, a body of water with stylized, wavy lines representing waves, and a cluster of reeds or grasses; on the right, a rocky outcrop or cliff face. The background shows more trees and a distant horizon. The style is characteristic of traditional Japanese woodblock prints, with bold lines and a focus on natural elements.

大和川 大和國中の川源發く垂城越の南郷下郡の

大和川 北の川に源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

大和川 大和川源ありまゝに内ふたへ

井掛の后へ原よりとも
 あれ様女より一重徳
 ち子班鳩宮より系内
 お其様ひね藤原より
 り人井小休しておに
 井掛の女ひよりす
 まふふくも
 もの匠の井と
 描るる子姪み
 かい宮人より
 同せらる小女が同
 母の教を受けて井と
 洗むいささきみ
 まふゆるさきみ
 母て元右小令
 後車不載しめ
 后くみ入る
 痛が来と採
 亦は目の海



叔母日飢人死すりち子懸しと流ひくそのふ理に葬さるるゆひに
其後日教を承ての屍骨をんすしめ給ふ衣履を棺の上にうみく
骸骨をふくろりけり其さぬをりうさきほこのやう服給ひ
くれし時の人とあやし聖の聖をえするのふれ実るうなるといひ
ありき日本 則飢人を墓ふつさ給ひ建磨墳といひ 其墳のう人の
塔に勝月上人の起立ありて聖徳太子と建磨大師の遺像をそへ置
りて安置の解脱上人の同時代の人と撰集抄 又の悦小解脱上人の
墳ふ二重塔をそへ草室かへ人建磨寺と号すといふともし人
堂の後小碑銘あり南禅寺惟肖和尚のまゝといふとこ今系系南禅寺
編番所へ建磨の像ふ勝月上人の法像ふありて近ひ大明三丰被地の南水
建磨堂なるの創りてある都々所圖今拾遺ふ人なり
放光廢寺 王村のふ 氷室止 王村のふ 三木廢寺 畠田村のふ
行岡ふ 今永村 行岡地朝原 畠田村のふ
あそくへふ菜はをん行岡の原をく人焚焼ぬけ 人凡

千載

まゐる路初よりいそこのまゐるをそへ後縁なり 日基後
いそこの朝のまゐるをそへ人焚焼ぬけ 人凡

小松杜 行岡莊ふ
六帖

いそこの小松の杜れ郭公のかみそりまゐる一ツツ

武烈大皇陵

平野村のふ 字は塚ふ
陵考曰高五間根上四間

顯宗大皇陵

平野村のふ 字は石上
陵考曰高五間根上四間

大幡神社

畠田村のふ 今八幡と称ひ

伊射奈岐神社

下牧村のふ

志都美神社

上里村のふ 今八幡と称ひ

大坂ふ神社

穴蒸村のふ

龍岩寺

い守村のふ 今八幡と称ひ 伊射奈岐神社 下牧村のふ

福應寺

い守村のふ 今八幡と称ひ 伊射奈岐神社 下牧村のふ

大坂雷神社

い守村のふ 今八幡と称ひ

當麻ふ神社

い守村のふ

萬歳ふ

二上ふの南

二上ふの墓

大津皇子の墓

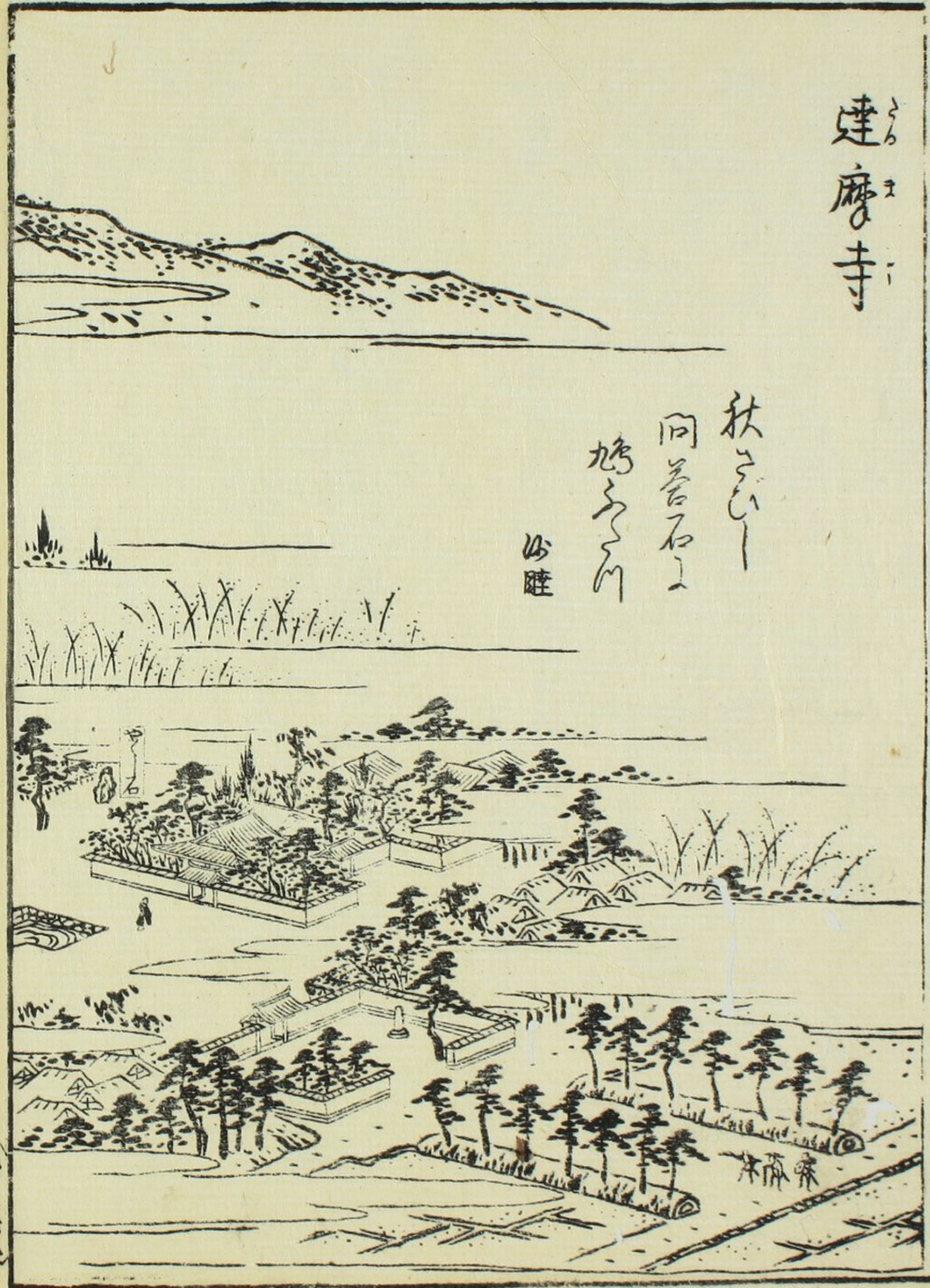
葛本二上神社二座

二上のふ 今八幡と称ひ

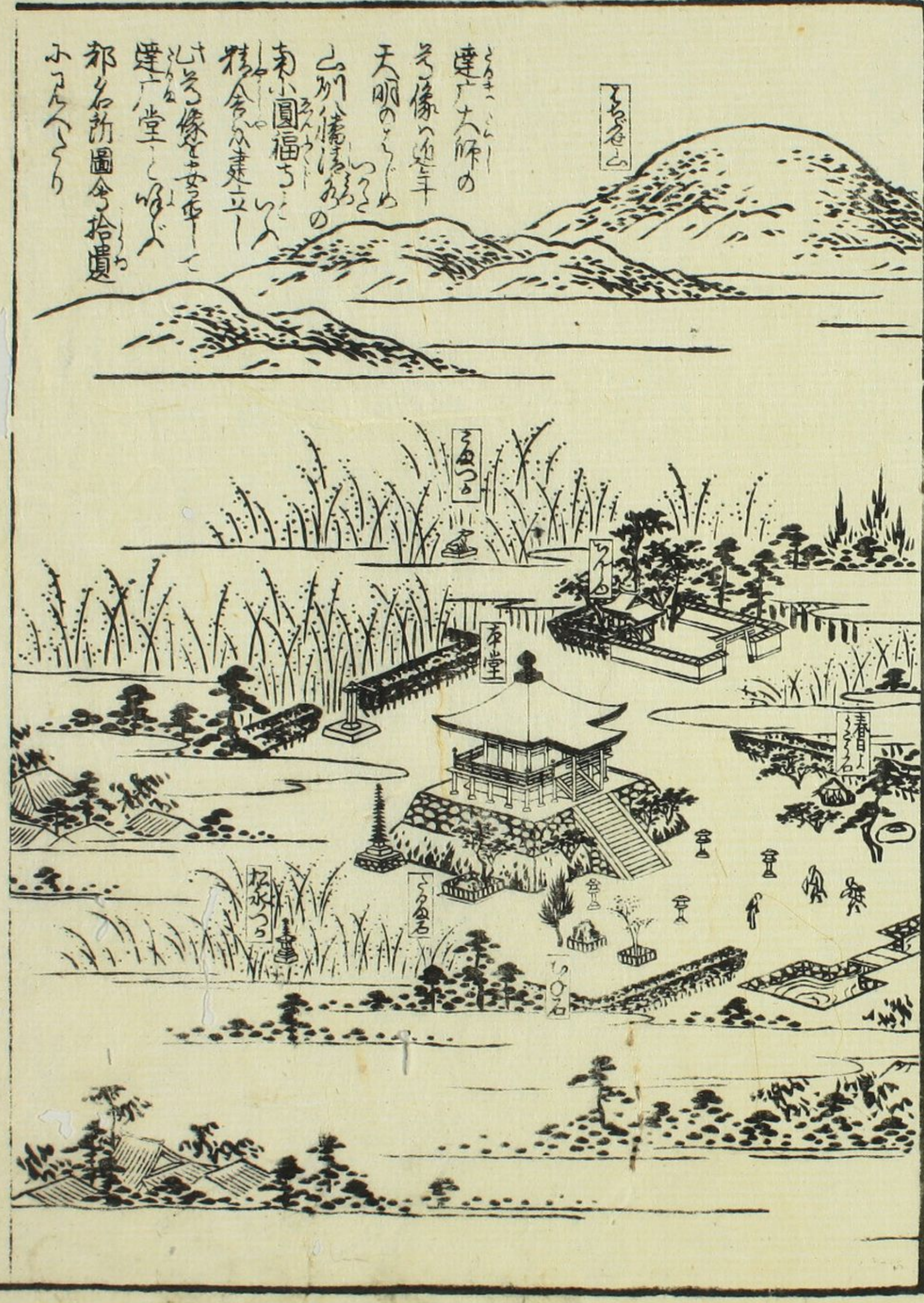
日本詩賦を初く作ははきき

建磨寺

秋さけ
同善石
鳩ふみ
山



建磨大師の
天照の
山別
南小圓福
精舎
建磨堂
都名所圖
拾遺



當麻寺

の衛

二上

二上

二上

二上

二上

二上

觀世音より曼陀羅堂といふ勅額あり是は新曼陀羅あり又

本堂の後の寶藏といふ將照直の曼陀羅を収めたりそれ當寺と

用明帝より皇子磨古親王に所建立に其初を推古帝に所

二十年河内國山田郷小造にあつては法藏院と號と今の當麻の地

ひう役行者の家地と大武帝白鳳二年磨古王の所爰の當麻

て今の地に移し移る大武帝役行者の地と云ふは當麻の地

勅より加蓋といふといふ十年二月堂舎とて成就にこふ

於て禪林と改め其後大平寶字年中右大臣豐成公の女中將照

はち小入の尼と成一公小佛道に勤むると其の妹陀佛と名はるる

まふかきとて移し移る一人の比丘尼あり語る曰我は

小陀佛と云ふありと云ふ百駄の蓮華と集むて中將尼帝(奏)

移るに詔し蓮華と運ぶに其時化尼と云ふ蓮華と云ふ

より井戸穿ちてこれに灌ぐふ久熾然と云ふなり又ひうの化女

より化尼といふ系に傳はりやとて曰果成とて化女と云ふ

の西北の角と云ふと云ふ織初更より初に更ふ成就に其幅一丈

八尺藁三把と云ふ油二升と浸し燭と云ふと云ふ中將尼に授

く淨土の變相悉く傳へ中將尼大に悦び節うれ竹と求む軸と

かには小化女忽然とて人々に化尼とて四句の偈を授く曰往昔

迦葉說法所今來法起作佛事響應西方故我來一入是場永離苦

中將尼同て曰若知識いけりありありと云ふと云ふの女推しといふ

者より宣入我と云ふ方の教より女の觀者大に悦びと云ふと云ふ

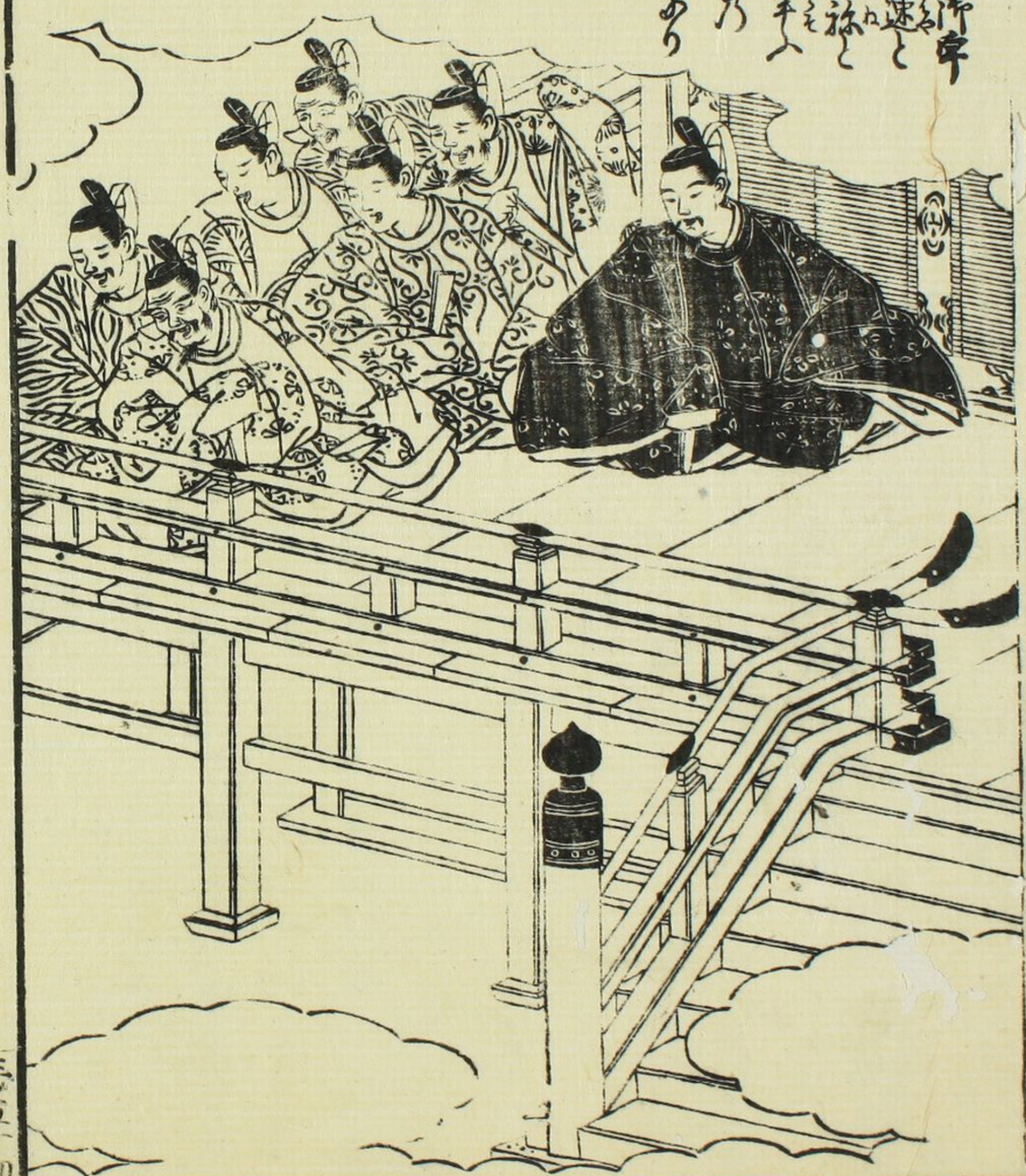
と云ふと云ふの方と云ふと云ふ中將尼是より精修するといふと云ふ

六年二月十日日安念佛といふと云ふと云ふと云ふと云ふ

新曼陀羅といふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

畫工の良賀は下源慶は眼銘といふと云ふと云ふと云ふと云ふ

密に大皇帝
 へはの蹴速と
 所見の宿務と
 ちろく成事入
 これ相撲乃
 らどゆりあり



講堂

本多の山に於て院如來地を菩薩の像あり

法華堂

右の扶如來

又側小茶所堂あり

右大將頼朝公徳谷小次希直家となり

坊舎

眞言宗十六坊 眞言宗十六坊 眞言宗十六坊

系玄庵

和州社記曰中將昭公當麻の實惟法師の師とて

小堂あり

尼寺あり

又日中

弘法大師の像あり

又日中

弘法大師の像あり

又日中

弘法大師の像あり

又日中

弘法大師の像あり

又日中

弘法大師の像あり

又日中

弘法大師の像あり

又日中

弘法大師の像あり

又日中

弘法大師の像あり

又日中

弘法大師の像あり

奥院

性生寺といふ源室上人の遺像上人みづゝ開眼四十八歳満ち

一像あり

洛東智恩院にて年曆を修めひるが或疾の疾我額小竹と有

おとのあき

悩むのびくく一と聖なるあきとふ誠小竹額小竹と有

はるそけい

けを血の流るる只肉身の如く又後の若あり我本師を當

麻子の曼陀羅

へく一と移し一とふの曼陀羅堂の乾と八功

徳沈ふ

てふ世の青蓮義あり一と一とせ移し一と後さめく有り

庇傍わや

み當麻ふ巡りてあると一と蓮義ふ一とおと入

役小角

ひく諸神勅清の所清淨の地なり一と七とせうぐらわと

比屋ふ

る蓮義あり則堂と建て遺像と有り性生寺と号し

石光寺

深野村あり大智帝の時大智ありて夜々光る

深野村

あり

深野村

あり

深野村

あり

深野村

あり

深野村

あり

深野村

あり

たゑは
深堂

まふや

深井ふ

うめは

空の久

雁夕



三ノ五十六



[illegible]

二上乙先麻方尔

移る處の松風

乃不允之也

いふるを人々いふ

五言古詩

卷之八

不之仁孫ふい

斧斤の罷ふす

くさくさぞ
あう

子

僧
躬
顏

貧死之徒

法の塵

七



高雄寺

新在家村あり二上口

横佩墓

横佩墓は、豊成公の墓なり。武智郡の長男淡路公の嫡孫正二位右大臣藤原朝臣の墓なり。豊成公の墓なり。武智郡の長男淡路公の嫡孫正二位右大臣藤原朝臣の墓なり。

正行寺

有井村あり。藤原上人の真影あり。實如上人の遺小日。昨應二年九月十九日。寫之。和列葛下郡平田莊有井邑圓淨。上人の遺小日。昨應二年九月十九日。寫之。和列葛下郡平田莊有井邑圓淨。上人の遺小日。昨應二年九月十九日。寫之。和列葛下郡平田莊有井邑圓淨。

多々虫王神社

二倉堂村あり。龍王と稱と。浮孔宮。二倉堂村あり。安寧天皇の皇居と。神名帳出。

調田神社

足田村あり。春日と稱と。長尾神社。長尾村あり。神名帳出。二代実録出。

金村神社

大倉村あり。神名帳出。宇佐神社。大倉村あり。二倉山八幡宮と手紙。二代実録出。

影現寺

本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。本寺阿弥陀佛。

歌家

文則林直民の孫とあり。和列村。本村人麻呂小石碑陰。

高山雲深不可攀。不可攀。桃源路迷。不可遊。不可到。然非天地之外。是以皓叟悠然。以隱黃髮。怡然自樂。彼人而遺此世。此世而遺彼人。故車馬跡絕。爲別天地者也。偶有知張子房。陶元亮者。而得向高山。得向桃源也。舉世皆不知之。豈子房元亮獨知之哉。出塵之操。與潔之情。同氣相求。同聲相應也。則高山之雲。桃源之路。豈必皆人哉。人皆之也。大和國漆郡。初瀬石上之邊。柳本寺。有柳本大夫人麻呂之墳。世移時替。基趾湮

滅。曾聞藤清輔尋其旧蹟。刻小碑詠歌而去。其後鴨長明尋之。不得矣。問歌墳在何處。而始知之人麻呂者。歌林之仙。獨步絕倫者也。清輔長明者。千歲之同士也。試心所求。豈不至乎哉。猶子房元亮於高山桃源也。和列郡山城。主日列太守源君信之一日。語余曰。其領內葛下郡。柳本村。有人麻呂之墳。土人傳稱人麻呂。生干茲。故後人建墓也。蓋其自歌墳所移葬乎。今已荒廢。僅存旧礎。是以修其寺院。建小石欲垂不朽也。請記其事。太守初鎮播磨。明石城浦畔。以有人麻呂祠。堂建碑。請詞於我先人。弘文學士詳記履歷。今又修其墳墓。可謂能知人麻呂者也。自然之好。因不亦奇乎。響雖有清輔長明。然不遇太守起廢之舉。則誰向其跡。尋其風哉。明石不遠。朝霧掩影。人麻呂之霄。息干此遊。干彼長濟。千歲之義也。亦是太守追遠之一端乎。其於事業。則民德歸厚者。可以期焉。乃誌于碑。陰爲後證。

天和元年辛酉十月中旬

整宇林懸直民甫識

笛吹

忍海郡の島界あり。巨樹鬱蒼。風雨の咄ふ。笛吹村あり。

栗栖小

柳本村あり。山城とあり。山城とあり。

彩霞古

古萩系。萩の系なり。古萩系。萩の系なり。古萩系。萩の系なり。古萩系。萩の系なり。古萩系。萩の系なり。古萩系。萩の系なり。古萩系。萩の系なり。古萩系。萩の系なり。

葛城川

北十三村あり。笛吹村あり。笛吹村あり。

爲志神社

林堂村あり。十二所権現と稱と。火雷神社。笛吹村あり。神名帳出。

角刺宮^{ついのうのみや}旧址^{ふるところ}忍海村^{しのうみ}人皇^{ひとみかど}廿二代^{ふたひたに}清寧^{せいねい}天皇^{てんかう}五年^{ごねん}崩^{やぶ}御^み孫^{まご}ひろく皇子^{みこ}を子^こ
 億計^{いじ}王^{わう}と清光^{せいこう}弘計^{こうけい}王^{わう}と承久^{じやうきう}帝^{てい}位^いを譲^{やう}りあそひ給^{たまは}ひしは承久^{じやうきう}天皇^{てんかう}也^{なり}
 あはれ目^めな經^{へい}より御妹^{みいへ}叙^{しよ}尊^{そん}を皇女^{みくにめ}忍海^{しのうみ}角刺宮^{ついのうのみや}に御^みて政^{まつりごと}を以^{もつ}て
 之^{これ}より忍海尊^{しのうみそん}と名^なを給^{たまは}ひた也^{なり}承久^{じやうきう}天皇^{てんかう}よりて
 清寧^{せいねい}帝^{てい}三年^{さんねん}七月^{しちがつ}角刺宮^{ついのうのみや}に御^みて與^よまてを承久^{じやうきう}天皇^{てんかう}よりて
 一^{ひと}といふ女の道^{みち}をたどりぬけふふ異^{こと}なることありんその後^{のち}交^{まじ}ひ合^あひの道^{みち}

あゝ一箇は子けりてらん
紀日主

遊岡 あそびのどろ
 笛吹村 ふ
 笛吹 ふ
 池 いけ
 塩室村 ふ
 清水 しみず
 今城村 いましろ
 清水 しみず

吹笛の社の神をきく
柱の園やりてん

東京上野
田吹の池の堤い遠くともさちといふ空を去るごとくうん 懐人三能

朱櫻しゅおう
笛吹ふありけ樹の皮を剥とりト部内亀小倒貢に
袖中拈ふ人々々々

大和名所圖會卷之三 終

ぐ
い
ど
まう
で
ふん
の
め
ぎ

入常入倫名義我

室鳩巢先生著 卯かま付

全一冊

此書ハ又帝又倫の程を委く述及び大学の脉款を附録とらんども
 明を明く小まるとる天下平からふと二十餘首中して儒教の旨
 繁盛とる卷末に病牛の戯とあれハあり
 清仁政の尊き事を記し是迄東先生の詩學にても聖人の道と信
 りて深し故に四字とるも教語との初学の徒として晨夕之を誦
 せんといふ古人の小學の意よりぬれあり因に童蒙婦女たり大
 耳は熟する時ハおのづから聖教の化よりて之を誦くんと正し
 忠信やと此とるに身作伝ふその書あり

浪華書肆

心齋橋通北久太郎所

河內屋喜兵衛

